

# HIMALAYA

**ヒマラヤ**  
**No.398**



**2005 JAN**



THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN

**日本ヒマラヤ協会**

HAJ

## 第2回「新日本ヒマラヤ会議・東京」のお知らせ

1. 主催：日本ヒマラヤ協会
2. 日時：2005年1月30日(日) 9時～17時
3. 場所：オリンピック記念青少年総合センター  
センター棟309号室  
〒151-0052 東京都渋谷区神園町3番1号  
電話 (03) 3469-2525
4. 費用：3,000円(資料代含む)
5. 内容：登山報告〔インド・パンゴン山脈とラダック山脈の山々(沖允人)、中国、カラコロン山群主峰(東海大学)〕、高所医学の基礎知識(群馬大学・齊藤繁)、高所登山事故と環境対策(HAJ事務局)他
6. 申し込み、問い合わせ先  
HAJ事務局

## ヒマラヤ400号記念原稿募集!!

HAJ機関誌「ヒマラヤ」は、来年(2005年)3月号で「400号」となります。編集部ではそれを記念して会員の皆様から下記のとおり原稿を募集しますので積極的な投稿をお願い致します。

### 記

1. 内容：ご自身の「ヒマラヤ地域での体験記」(研究・論文は除きます。HAJの「ヒマラヤ地域」とは、ネパール、インド、

パキスタン、アフガニスタン、ブータン、中国、カザフスタン、キルギス、タジキスタンの9か国です。)

2. 分量：2,800字以内、写真2枚(プリント)  
(裏に日時、場所などの説明を記入)
3. 締切り：2005年3月末日
4. その他：タイトルを必ずつけて下さい。到着順に随時掲載致します。原稿料はありません。

### 表紙写真

素晴らしい岩壁帯が広がっている。ジュトマル氷河から見上げたプマリ・チッシュ(7,492m)主峰、南東峰(c.7,350m)、無名峰(c.6,850m)だ。一番高く真中に立つ南東峰頂上まで真直ぐにラインを引くクライマーを待ちたいものだ。(左・主峰、右・無名峰)

(写真：杉本忠男/文：山森欣一)

## ヒマラヤ No. 398

1. 桃源郷のブータンは今、
2. ガッシャーブルム I 入山者 [1981-2004=24年間]
6. ヒマラヤン・データベース (HIMALAYAN DATABASE)
7. ヒマラヤニュース〈地域ニュース・訃報・トピックス・Books〉
9. トータル獲得標高 2004 山森欣一
20. 山森欣一理事長「HAJ専従25年」を労う会報告
24. 事務局日誌

# 桃源郷のブータンは今、

## 国内禁煙

### ブータン

### 世界初販売を完全禁止

【ニューデリー＝大野 良祐】ヒマラヤ山麓の国ブータンは、12月17日からたばこの販売を一切禁止となる。英国の禁煙Nじ、国内で事実上の全面禁煙を実施することを決めた。同国では、20ある行政区のうちすでに18で販売によると、国全体の禁煙



実施は世界初だという。同国通産省は8日、全

国のホテルやレストランなどに対し、施行日までたばこをすべて廃棄するよう通達を出した。同日以降にたばこを売ったところは、営業許可を取らなければならない。消費されるほか、罰金1万ヌルタム(約2万3千円)を徴収される。ブータンは九州とほぼ同じ面積の国土に人口約220万人(国連調べ)が暮らす。

ヒマラヤの桃源郷「ブータン」が、国内での「たばこ」の販売を全面的に禁止することが明らかになった。

そのことを報じた朝日、読売両紙の表現には、微妙な違いがあり「全面禁煙」なのか定かではない。販売は禁止だが、個人輸入(持ち帰り)して関税を払い「自分の部屋」で吸う分には、外国人であろうとブータン人であろうと「罰せられない」とも書かれている。

朝日は「国連調べ」としてブータンの人口を約220万人としているが、約20年前の1982年10月、日本ブータン友好協会が発行した「ブータン ヒマラヤの王国」では、人口120万人とし、さらに同協会が2001年9月に発行した「入会案内」では、人口を約66万人としている。(文責：山森欣一)

## ブータンたばこ販売禁止 \* 個人輸入にも100%関税

【ニューデリー＝林英彰】ヒマラヤの小国ブータンで、国内でのたばこ販売が17月十七日から一切禁止される。禁煙運動がさかんな国はあるが、全面的な販売禁止に踏み切るのは世界初の試みとみられる。

個人使用に限り輸入は可能だが、100%の関税がかかる。布告は、喫煙を規制して

を販売している店やホテルなどは、禁止日までに在庫を処分しなければならぬ。また、布告を無視した者には罰金1万ヌルタム(約2万5000円)を科すとともに、営業許可を奪われる。

ブータンでは、元来、たばこをたしなむのは、一部市民に限られていた。しかし、テレビ放送やインターネットが解禁された一九九九年以降、広告などの影響で喫煙者が増加し社会問題となっている。

はいないが、一部の富裕層を除き、喫煙は事実上、不可能となる。一方で、外国人観光客の持ち込みは自由で、しかも課税対象外としている。

二〇〇四年十一月十七日、読売新聞

二〇〇四年十一月十七日、朝日新聞



## ガッシャーブルムⅠ入山者 [1981-2004=24年間]

(注) 派遣母体名の後ろの( )内は、登山隊員+報道等であるが、学術隊員、医師等は登山隊員とした。氏名の前の×は、その登山で死亡した者。

### [1] 1981年夏

長野県山岳協会(11)

隊長：前沢昌弘(37)／隊員：野沢仁三郎(42)、木下洋亮(38)、唐木真澄(37)、梅原敏靖(37)、長松公夫(34)、東英樹(31)、伊藤純一(30)、藤本良明(30)、下鳥康三(31)、藤次康雄(26)、植田俊郎(26)

[日本人初登頂を目指して、初登ルートに入山。6月12日、アブルッツ氷河上5,000mにBC設営。16日C1(5,300m)、23日C2(5,800m)建設。7月6日C2が雪崩のためつぶれ、8～15日は関西のG4隊遭難救助。12日C3(6,300m)、21日C4(7,000m)建設。8月3日、東、下鳥、藤次がC4を午前2時半に出発してアタックしたが、藤次は7,700mで断念し、残る二人が17時35分登頂に成功した。この日は、3人で7,700mでピバークし、翌日C3へ下山した。]

### [2] 1986年夏

登歩渓流会(3)

隊長：清水修(28)／隊員：和久津清(27)、金刺博子(27)

[北稜から清水、和久津の二人での登頂を目指して6月27日、5,100m地点にBC設営した。7月2日登山活動開始。12日C1(5,800m)建設し、17日～18日でC2(6,300m)予定地に荷上げ。25日C1に移動し2日間悪天のため停滞。28日C2建設。29日北稜に取り付いたが6,700m地点で断念。30日、北稜左手のクローワールに取り付き苦戦しながら1本固定ロープを張った。31日休養。8月1日、雪田2ピッチに8時間を費やし、フランス隊も合流してプラトーへ抜けてC3(7,100m)を建設。2日、5時40分出発。70度はある雪壁を登り、16時15分新ルートからの登頂に成功した。以後このルートは、ジャパニーズ・クローワールと呼ばれている。]

### [3] 1989年春・偵察 [中国側]

横浜山岳協会(2)

隊長：福島正明(38)／隊員：玉田仁(36)

[翌年の偵察のため初めて北面に入山。4月30日、BC(4,100m)設営。5月5日ウルドク氷河に入り9日まで偵察。13～14日は上部を、18～22日までサガン氷河を偵察し、東稜の偵察を行った。]

### [4] 1989年夏 [中国側]

宮城県山岳連盟(12)

隊長：八嶋寛(39)／隊員：大友幸一(41)、後藤真(40)、小野寺光義(43)、志小田清光(33)、小野睦男(34)、鈴木敏充(31)、加藤さゆり(31)、我妻邦夫(29)、相澤敏信(29)、中川直樹(27)、工藤一(40)

[中国側からの初登頂を目指して入山。6月13日ガッシャーブルム氷河とウルドク氷河の出合4,100m地点にBH設営。29日、BC(4,400m)、7月1日C1(4,750m)、3日C2(5,000m)、12日、東稜上にC3(5,300m)、20日C4(5,800m)建設。26日、C2～C3間を単独行動中の八嶋隊長が雪崩に巻き込まれたが九死に一生を得た。8月4日C5(6,100m)建設したが、滑落事故もあり危険と判断して登山は中止された。]

### [5] 1989年夏

高山研究所(4)

隊長：原真(52)／隊員：遠藤晴行(32)、遠藤由加(23)、永田秀樹(36)、

[日本、ソ連、オーストリア、ネパール合同隊として6月21日5,000mにBC設営。悪天候などもあり、7月7日全員で北面登攀を予定してガッシャーブルム・ラ(6,400m)に到達。原、永田を除く6名で北西壁、北稜の状態が悪いため北面クローワールに取り付いたが全員6,700mで断念。11日遠藤夫妻とネパールのツィンディ・ドルジェ(19)が11時間でクローワールを抜け7,200mに泊まり、12日14時登頂に成功した。しかし、帰途ドルジェが前夜のピバーク地の手前100～200mで転落行方不明となった。]

### [6] 1990年夏

岡山大学(12)

隊長：黒田治久(38)／隊員：片山貴寛(30)、財



津智英(29)、石原謙(49)、東善弘(30)、田尻英彦(26)、山崎裕晶(24)、中川広幸(25)、山根智之(23)、渡辺泰彦(35)、佐藤倫由(27)、坂本賢次(30)

[西稜末端からの登頂を目指して5月29日BC設営。6月6日西稜末端の取り付けにC1(5,900m)、22日C2(6,900m)、7月2日C3(7,300m)建設。7,400m地点で標高差100mのロックバンドを越え、9日に7,600m地点をC4予定地とした。15日、片山、山根、田尻とHAP2名のアタック隊がC4入り。翌日500mの固定ロープ張りながら登り、8,000mを越えた所で田尻引き返したが、14時12分4名は登頂に成功した。この日は10時半頃より吹雪であった。]

#### [7] 1990年夏

JFMA(5)

隊長：常陸民生(46)、／隊員：倉嶋博之(31)、桜井文隆(30)、関口豊重(24)、梶村訓弘(59)

[北面からの登頂を目指して8月9日BC設営。20日C1(5,950m)、9月4日C2(6,350m)を建設。一旦BCに降りた。12日アタックしたが、C2で3日間停滞。17日C3(7,200m)建設し、19日、7,800mに達したが風雪のため断念。]

#### [8] 1992年夏

早稲田クラブ(5)

隊長：大谷映芳(45)／隊員：木内聡(40)、木野広明(28)、棚橋靖(29)、児玉元貴(26)

[ナジール・サビルを加えて西稜からの登頂を目指して入山。7月8日BC設営。下旬にC3(7,100m)、8月中旬にC4(7,500m)を建設したが、7,900mで断念した。しかし、ナジールはHAP2名と24日BCを出発しC3に入り、翌日14時45分登頂しC3に戻り、26日BCへ降りた。これによってナジールはパキスタン人として初めてのバルトロ4座登頂者となった。]

#### [9] 1992年夏

小西(2)

隊長：小西浩文(30)／隊員：戸高雅史(30)

[北壁西面からの登頂を目指して6月29日BC設営。7月5日C1(5,900m)、13日C2(6,300m)建設しBCへ降りた。23日C2に入り6,520mに達したが26日BCへ降りた。西稜に変更し、8月4日7,100mに達したが断念した。]

#### [10] 1993年夏

雲表クラブ(5)

隊長：船尾修(32)：隊員：藤村浩幸(31)、中村圭司(30)、松本龍雄(61)、由井義一(51)

[ジャパニーズ・クーロワールからの登頂を目指して、6月5日BC設営。7日C1(5,800m)、20日C2(6,400m)建設し6,750mに達した。その後GII韓国隊の救助活動を行う。21日C3(7,100m)建設し、翌日船尾と中村がアタックしたが、7,450mに達したところで天候が悪化したため断念した。]

#### [11] 1994年夏

富山県山岳連盟(13)

隊長：佐伯尚幸(54)／隊員：中島眞(48)、谷口守(45)、佐伯成司(35)、松田靖彦(35)、黒崎泰信(31)、稲葉英樹(30)、丸山政寿(29)、川村泰臣(27)、佐竹剛彦(26)、高田賢一(24)、田邊隆一(42)／報道：川端睦夫(34)

[北壁に新ルートを開拓することを目指して7月3日BC設営。10日C1(5,900m)、6月23日6,450mにC2を建設。ジャパニーズ・クーロワールの左手の岩壁にルートを開いたが6,700mで断念。8月7日から通常ルートに変更し、9日C3(7,400m)建設。荒天をやり過ごし12日、谷口、稲葉、佐伯成が英米隊と共に登頂に成功した。]

#### [12] 1996年夏

京都クライマーズクラブ(3)

隊長：林雅樹(32)／隊員：川奈部隆之(27)、唐橋芳和(25)、

[全員登頂を目指して入山。6月23日南ガッシャーブルム氷河にBC設営。7月2日C1(5,850m)、11日C2(6,400m)を建設。BCへ下り、19日からのアタックは天候悪化でC2まで。27日アタックのためC2入りし、翌日7,100mにC3建設し29日は疲労のため停滞。30日アタックのため午前1時20分に出発。12時間後に全員登頂し、C3に帰着したのは31日の午前3時半であった。8月1日C1下部で韓国隊の遭難救助を夜を徹して行い、BCには2日に帰着した。]

#### [13] 1997年夏

群馬県山岳連盟(7)

隊長：名塚秀二(42)／隊員：宮崎勉(49)、馬場保男(49)、岩崎栄(38)、江塚進介(36)、星野龍史(30)、品川幸彦(29)、

[II峰との連続登頂を目指して6月19日BC設営。24日C1(5,900m)、7月2日C2(6,400m)、6日

C3(7,100m)建設。7日午前3時半アタック開始、14時26分、名塚、江塚、星野、品川が登頂。9日にも宮崎と、HAP2名が登頂した。]

[14] 1997年夏

群馬県山岳連盟(7)

隊長：佐藤光由(36)／隊員：吉田秀樹(44)、吉田文江(41)、梁瀬佐市(42)、岩崎洋(37)、福本誠志(23)

[ブロード・ピークからの連続登頂を目指してBC設営。先に登頂した群馬隊のテントを利用してC3直下まで到達したが、悪雪のため断念。]

[15] 1997年夏

JFMA(4)

隊長：常陸民生(54)／隊員：倉嶋博之(38)、牧野総治郎(42)、佐野友康(24)、

[通常ルートからの登頂を目指して6月22日5,200mにBC設営。C1(5,800m)、C2(6,300m)、C3(7,300m)と建設し、7月16日倉嶋、佐野が登頂に成功した。]

[16] 1997年夏

岩峯登高会(2)

隊長：木村功二郎(28)／隊員：小田佳子(29)、

[通常ルートからの登頂を目指して入山。6月17日にBC設営。7月8日木村が登頂に成功した。]

[17] 1997年夏

小西／北村(2)

隊長：小西浩文(35)／隊員：北村俊之(34)

[通常ルートからの登頂を目指して入山。7月16日二人が登頂に成功した。]

[18] 1998年夏

郡山勤労者山岳会(4)

隊長：×熊田一徳(43)／隊員：×渡辺孝(40)、×橋谷田義文(31)、×内藤和俊(28)

[通常ルートからの登頂を目指して入山。6月27日BC設営。7月1日C1(5,700m)、15日C2(6,350m)、28日C3建設。29日4名でアタックしたが、悪天候のためC3へ引き返す。30日悪天候のため停滞。31日再度4名でアタック。ドイツ隊が頂上直下で遭遇し、ドイツ隊が7,700m地点で振り返ると、郡山隊がビバーク体勢のように見えた。これを最後に4名は消息を絶ち、行方不明となった。]

[19] 1998年夏

兵庫県山岳連盟(6)

隊長：東秀訓(38)／隊員：八瀬順也(35)、藤城明弘(32)、玉田大介(25)、吉田政平(29)、岩下頼人(23)

[通常ルートからの登頂を目指して入山。7月27日、八瀬が7,700m地点で滑落し骨折。29日、岩下が登頂に成功した。]

[20] 2001年夏

明治大学(6)

隊長：高橋和弘(27)／隊員：早川敦(27)、加藤慶信(25)、森章一(26)、天野和明(24)、谷山宏典(23)

[GIIとの連続登頂を目指して入山。6月2日BC設営し、先ず7月10日に全員がGIIに登頂。30日からGI登山開始。22日C2(6,400m)、8月3日C3(7,100m)建設。翌日のアタックは7,700mまで。12日再びC3入りし13日全員が登頂に成功した。]

[21] 2002年夏

日本ヒマラヤ協会(4)

隊長：岩崎洋(42)／隊員：田辺治(41)、野沢井歩(37)、後藤文明(37)

[チョゴリザとの連続登頂を目指して入山。6月24日BC設営。7月1日C1(5,800m)、3日C2(6,400m)、その後悪天候の繰り返しで8月4日C3(7,100m)建設。翌日アタックし全員登頂したが、岩崎、後藤はC3へ帰着できずビバークとなった。5日C3停滞。6日下山途中から後藤が高山病となり自力歩行不能となり、救出に手間取り、このためチョゴリザ登山は中止した。]

[22] 2003年夏

日本勤労者山岳連盟(9)

隊長：近藤和美(61)／隊員：上野幸人(49)、香取純(51)、飯塚公知(24)

[GIIとの連続登頂を目指してBC設営。先ず8月1日に、橋本、飯塚、上野、近藤がHAP2名とGIIに登頂。橋本が下山し、香取が加わって8月8日GI登山開始、C1(5,950m)へ。9日ガッシャーブルム・ラ手前のC2(6,400m)へ荷上げ。13日、悪天候のため登山中止を決定した。]

[23] 2004年夏

竹内洋岳(33)

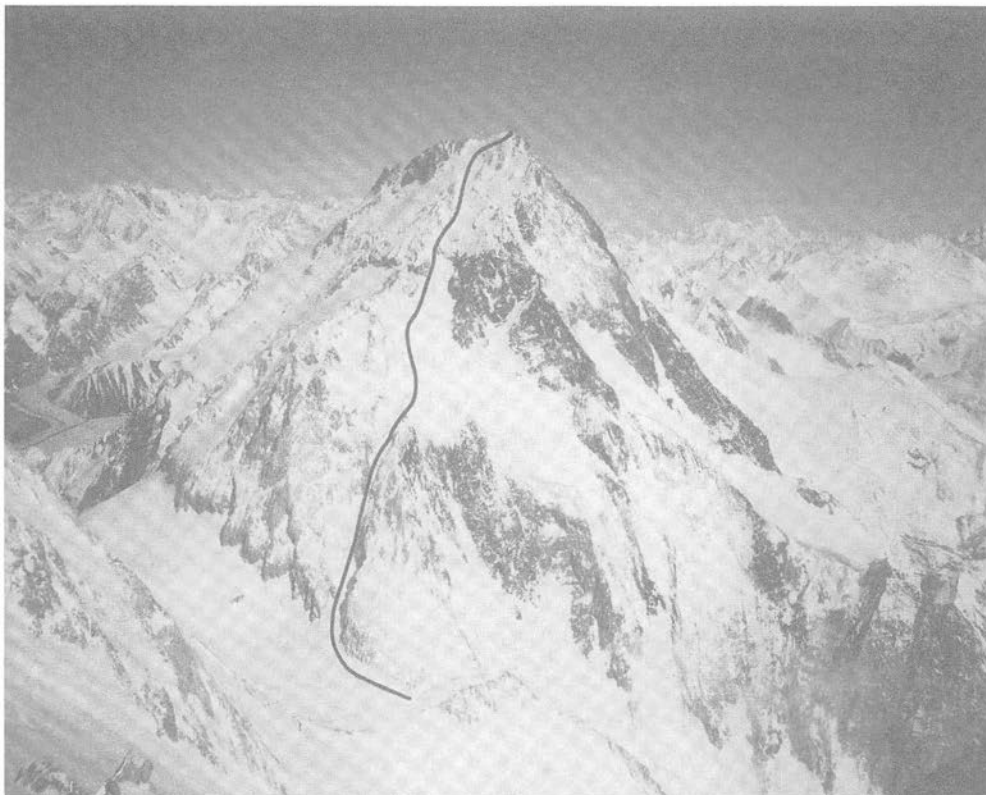
[アンナプルナIの登頂を終えた竹内が、国際隊の一員として通常ルートから7月25日登頂に成功した。]

20世紀 ガッシャーブルム I 峰登頂者リスト

	氏名	生年月日	登頂年月日	年令
1	東 英樹	1949.02.	1981.08.03	32○
2	下鳥 康三	1949.11.	1981.08.03	31○
3	清水 修	1958.04.	1986.08.02	28◎
4	和久井 清	1958.12.	1986.08.02	27◎
5	遠藤 晴行	1957.02.	1989.07.12	32
6	遠藤 由加	1966.01.	1989.07.12	23
7	山根 智之	1967.05.	1990.07.16	23
8	片山 貴寛	1960.03.	1990.07.16	30
9	谷口 守	1948.12.	1994.08.12	45
10	稲葉 英樹	1964.03.	1994.08.12	30
11	佐伯 成司	1958.08.	1994.08.12	35
12	林 雅樹	1963.11.	1996.07.31	32
13	川奈部隆之	1969.03.	1996.07.31	27
14	唐橋 芳和	1971.03.	1996.07.31	25
15	×名塚 秀二	1954.11.	1997.07.07	42
16	江塚 進介	1961.04.	1997.07.07	32
17	×品川 幸彦	1968.12.	1997.07.07	28
18	×星野 龍史	1967.11.	1997.07.07	29

	氏名	生年月日	登頂年月日	年令
19	木村功二郎	1968.11.	1997.07.08	28
20	宮崎 勉	1947.11.	1997.07.09	49
21	倉嶋 博之	1958.06.	1997.07.16	38
22	佐野 友康	1972.11.	1997.07.16	24
23	北村 俊之	1962.08.	1997.07.16	34
24	小西 浩文	1962.03.	1997.07.16	35
25	岩下 頼人	1975.02.	1998.07.29	23
26	高橋 和弘	1973.10.	2001.08.13	27
27	早川 敦	1973.08.	2001.08.13	27
28	加藤 慶信	1976.01.	2001.08.13	25
29	森 章一	1975.04.	2001.08.13	26
30	天野 和明	1977.02.	2001.08.13	24
31	谷山 宏典	1979.02.	2001.08.13	22
32	×野沢井 歩	1964.08.	2002.08.05	37
33	田辺 治	1961.01.	2002.08.05	41
34	岩崎 洋	1960.02.	2002.08.05	42
35	後藤 文明	1965.05.	2002.08.05	37
36	竹内 洋岳	1971.01.	2004.07.25	33

○=日本人初登頂、◎=初登攀



ガッシャーブルムI峰ジャパニーズ・クローワールルート初登攀  
一九八六年八月二日(登歩溪流会隊)

(右と雪一十九号)より

ガッシャーブルム2峰南東稜から見た1峰北面 実線は登攀ルートを示す W・クルティカ撮影  
The North and the Northwest Faces of Gasherbrum 1 with the route marked. W. Kurtyka photo.



## ヒマラヤン・データベース (HIMALAYAN DATABASE)

ネパールで登山を行った人なら、エリザベス・ホーリーの名を聞いたことの無い人はいないであろう、ネパール・ヒマラヤの生き字引ともいえる彼女のこれまでの取材の成果が、1枚のCD-ROMとしてまとめられて発売された。

1957年にはニューヨークで雑誌「フォーチュン」の編集に関っていたという、1960年カトマンズに居を構えてから今日まで、ネパールを訪れた登山隊の元を逐一訪れ取材し、ロイター電として世界に発信し続けた。これとは別に、1982年からは春と秋の登山シーズンが終わると少しして、登山隊のレポート(ホーリーレポート)を刊行し、「アルパイン・ジャーナル」「アメリカン・アルパイン・ジャーナル」「ヒマラヤン・ジャーナル」に掲載され、日本でも「山と溪谷社」が翻訳して「岩と雪」、現在では「山と溪谷」本誌や「ロック&スノー」に掲載している。現在でもタイプライターを使っているそのレポートは、これだけデジタル情報が氾濫する現在においても、一方的な見解を正すために重要な役割をはたしているし、本人からの取材と歴史を知る者のもつ厳しい目で見たレポートは、時にネパール観光省や本人の自己申告と異なっていた。

ホーリーによって永年積み重ねられてきた手書きのノートのデジタル化は、90年代初頭にホーリー自らがネパール人の学生を使って始められており、93

年からは今回このデータベースを作り上げたアメリカ人リチャード・サーリスベリが加わりその主体となった。

データベースの内容は、1908年から2003年まで



の間に、ネパールヒマラヤの6,000mを超える300峰以上、4,500を超える登山隊と3万5千人以上の登山隊員、6,000を超える登山報告、雑誌記事が、様々な角度から検索出来る内容になっている。

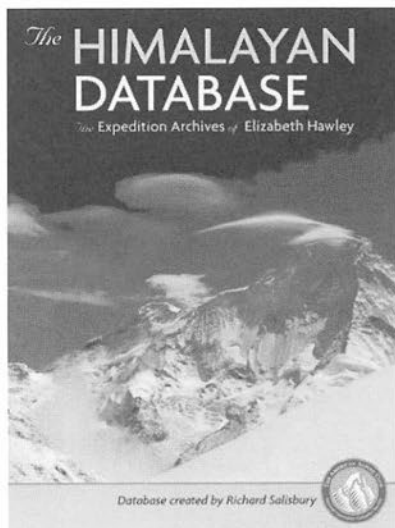
それぞれ、「ピーク」「メンバー」「エクスペディション」などで目的の項目を検索、検索結果に対して関連する様々な切り口で更に事例を知る事が出来る。なかなか便利である。私も1981年に一度だけネパールで登山をしたが、登頂もしなかった隊の最年少隊員の名前がきちんと引き出すことができ、当時カトマンズのエキスプレスハウスで、「ホーリーばあさん」(当時から)に登攀リーダーが受けた取材の内容が当然のことながら英文で掲載されていた。

このCD-ROMの出版元はアメリカ山岳会、その意識の高さと現実的な手腕は高く評価しなくてはならない。日本人はデータの収集の分野においては世界でトップクラスにあると考えられるが、それらのデータを皆が利用可能なものとする手段を考え出さないと宝の持ち腐れ、いや、英語圏で作られたアジア関連には乱暴なデータが主役となってしまい、利用されなくなってしまおう。早急に手を打ちたい。

尚、アメリカ人が作っているのだから、当然全て英語。(説明書も)日本のソフトのようなきめ細かさには欠ける。そっけない実質のみの正に「データベース」となっている。検索結果はそのまま印刷またはエクセルに出力して保存ができる。

Windowsとマック何れも動作する。定価69.95ドル。インターネット本屋、アマゾンなら6,635円(送料込み)。商品が届くまで1ヶ月くらいだった。

(記:中川 裕)



## 地域ニュース

### 《ネパール》

#### パサンラムチュリ(7,351m)新ルート

中国との国境上にあるパサン・ラムチュリまたはナンバイ・ゴスムI峰、チベット名チョー・アウイの南東壁がスロベニア隊により初登攀された。

ウルバン・ゴロフ(34)隊長ら7名は10月3日BCに到着した。一行のうち3名、ウロス・サメック(28)、サモ・クルメリ、ロク・ブラガスは5日には南東壁の下ABC(5,555m)を建設、岩壁を6,100mまで登り固定ロープとキャンプを設置した後、17日に2度目の順応活動で6,400mまで登り、翌日にBCに降りた。

頂上アタックは22日に始まり、23日午前1時にABCを出発、南稜を6,600mまで登り、24日9時頂上に達した。そして南東壁を19ピッチ懸垂下降の後、夜にはABCに下降した。

初登頂は1986年チベット側からH A J 隊。

これとは別に、パサンラムチュリの南にあるDazampa Tse(6,295m)にはタジェ・ゴロフ(36)とウルバン・アズマン(28)が初登頂した。

#### テンカンボチェ(6,487m)新ルート

前年に北東壁からの登頂に失敗した英国のニック・ブロック(38)とニック・カーター(33)が北西壁に新ルートを拓いた。二人は3日間で登山を終えたが、壁は完登したものの、西稜に抜けたところで終了下降し、登頂はしていない。

アルプスのドロワット北壁を2倍にしたようなルートで、ルート名は「暗黒の終わり(エッジ オブ ダークネス)」。

#### 片山右京さん、マナスル登頂を断念

ネパール・ヒマラヤのマナスル(8,163m)に挑んでいたレーシングドライバーの片山右京さん(41)が13日、登頂を断念した。最高到達点は7,600m、昨秋のシシャパンマ中央峰(8,008m)に続いて3座目の8千メートル峰登頂を目指していた。

マナスル山頂付近は強風が吹き荒れ、気温も零

#### ▼パサンラムチュリ南面と新ルート



下25度まで下がり、食料と燃料も残り少なくなり、この日、活動の続行は難しいと判断した。片山さんは「僕はとても元気だったので、天候が回復しなかったのは残念」と話している。(朝日11/14)

### 《インド》

#### ガルワール・サーフミナル(6,911m)第2登

チャンガバン(6,864m)、カランカ(6,931m)北壁のような1,700m近い花崗岩の垂壁とは異なり、サーフミナルの北面は2,000mに及ぶ黒く脆いミックス壁が続いている。昨年秋にアンナプルナⅢ峰(7,555m)南東稜をアルパインスタイルで初登攀した英国のイアン・パーネルとジョン・ヴァルゴが、29年ぶりの2登をこの北壁から行った。

二人は固定ロープも前進キャンプも設けないアルパインスタイルで挑んだ。

顕著な尾根から取り付き、脆い岩と、雪の積もったスラブ、上部では水のクローワールを繋いで登攀し、3日間の好天の後に、36時間嵐に閉じ込めら



▲右奥からチャンガバン、カランカ、サーフミナル

れたが、悪天の中も登攀して、頂上の200m下で西稜に抜け、10月5日登頂に成功、下降には2日間、BCに辿り着いた時には、食料無くなり、切断されたロープとナッツが一つとカムが二つ残されただけだった。

サーフミナールは1975年ナンダ・デヴィ内院側(南側)からH A J 隊(清水澄隊長)が初登頂した。

## 討 報

### 阿部淳氏(元H A J 理事)

H A J 理事を長く務められ、北海道のヒマラヤ登山をリードして来られた阿部淳(きよし)氏が11月4日「筋萎縮性索硬化症」のため、札幌の病院にて急逝された。享年71歳。

阿部氏は、H A J が「ヒマラヤの旅」として、1968年にネパールに派遣したトレッキング隊の一員としてエヴェレスト街道を歩いた。

1970年にはH A J 理事となり1995年までの間、通算18年務められた。また、1972年には、H A J 内に発足した「エクスペディション研究会(E X P 研)」の中心メンバーとして活躍。1973年H A J (北海道)がネパール・ヒマラヤの「カンジェラルワ(6,600m)」に派遣した登山隊の中心となり、初登頂に貢献した。その後もE X P 研が派遣したラムジュン・ヒマール(6,973m)、ヌン(7,135m)、リシ・バハール(6,992m)などの登山隊を支えた。

また退職後の1995年3月から8月にかけて、インド、パキスタン、ネパール・ヒマラヤを駆け巡り、その経験を「ヒマラヤ」に「中高年? ヒマラヤ流れ旅」として連載し好評を博した。

なお有志による「お別れ会」が、12月5日(日)札幌「KKRホテル札幌」にて執り行われた。

## トピックス

### 名塚秀二常務理事葬儀

10月10日、ネパール・ヒマラヤのアンナプルナ I (8,091m)へ挑戦中、標高約6,300m地点で雪崩のため遭難死亡したH A J 名塚秀二常務理事は、

カトマンズで荼毘に付され帰国した。

葬儀は11月7日(日)午後1時から群馬県前橋市のメモリード前橋典礼会館にて執り行われた。

当日は、北から南から友人・知人約500名が参列し、献花を捧げて名塚常務理事の冥福を祈った。

また、名塚常務理事の追悼記事が、11月8日付朝日新聞に「8千峰完登の夢を追い」、11月21日付読売新聞に「14座登頂 夢のままに」として掲載された。

## Books

### 山岳文化第2号

日本山岳文化学会の機関誌。巻頭言に國見利夫「山と向き合うところ」、創立総会記念講演の近藤信行「山と日本人」、研究講演の大森薫雄「中高年登山者の医学的諸問題」、研究として高室陽二郎「登山史の裏側にあるもの」、山森欣一「ヒマラヤ登山文化形成の概観」、高澤光雄「ペテガリ岳遭難でイグルーを実用化した北の登山者たち」回想として斎藤一男「山と人との出会い」、随筆、久保利永子「アルバート・スミスの『モンブランのみせもの』」、牧水と鳥水(太田顕成・蓑毛俊雄)、試論に水野政雄「ヒューマニスト高村光太郎」、論文に藤原ゆり子「近代自然観における内在的永遠性観念」などがある。

A 5判、80頁、1,000円 2004年10月20日刊  
アテネ書房 (☎ 03-3816-3871)

■財政支援：[1万円] 志小田美弘

### 東京集会のお知らせ

日時 12月22日(水) 午後7時～  
内容 望年会  
場所 H A J ルーム(地下鉄有楽町線東池袋下車4番出口から地上に出て右へ徒歩2分)  
又は、J R大塚駅下車、都電荒川線の早稲田方面2つ目の東池袋4丁目下車、前方で右に折れて地下鉄出口から徒歩2分)



# トータル獲得標高 2004

山森欣一

2004年は、K 2 とチョー・オユーが初登頂されて50年の節目の年であった。そのため、K 2 は初登頂したイタリアを中心に賑わい、パキスタンも記念行事を催した。

一方のチョー・オユーは、当時の政治的な事情もあって、ネパールの許可でチベット側から登られた経緯がある。現在は中国側から最も登りやすい八千メートル峰となっているためか、ネパールが記念行事を催した様子もない。昨年のエヴェレストの大騒ぎと比べると静かであった。

この年の日本ヒマラヤ登山界は低調であったが、その中であっては八月中旬まで粘って、K 2 の南々東リブを高所ポーターを使用せずに登山し、登頂に成功した「どさんこ同人隊」は快挙といえる。

また3名でスパンティーク(7,027m)の新ルートから登頂に成功した「同人パハール隊」は、目標の選択を誤らなければ、実力相応の山々がヒマラヤには沢山あることを裏付ける結果となり、若い登山者たちの指針となるだろう。

春にチョモランマの登頂に成功しながら、帰途8,500mの高みで遭難死亡したケースは、60歳代であったことと公募登山隊であったことで、今後これら「高所遠足」を試みようとする層に対する強烈な警鐘を与える結果となった。

夏には、7,500m級の山では最も登りやすいと見られていた中国、ムスターグ・アタ(7,546m)で遭難が発生し1名が行方不明となった。山岳4団体が統一した「高峰登山計画書」の提出の無い、このような層による遭難事故が多発しないように関係者の協議が問われている。

秋の名塚秀二のアンナプルナ I での雪崩遭難は、困難を求めればそこにも多大な危険が存在していることの証明であるが、それを乗り越えるのが「登山」であることを忘れてはなるまい。

## 35,000m（5座登頂）を越えた岳人たちの概要

(氏名のゴジックは女性 ×印は死亡)

2004年11月30日現在

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
1	近藤和美 (143,292m) 19座 1941.11. 生 (63歳) 初登頂1座	a. コルジェネフスカヤ	7,105	T	1984. 7. 31	九山同人	ツェト		1
		b. レーニン	7,134	K	1984. 8. 6	九山同人	ラズジ		
		c. イスマイル・ソモニ	7,495	T	1986. 8. 3	九山同人	ポロド		
		d. コルジェネフスカヤ	7,105	T	1986. 8. 9	九山同人	ツェト		
		e. レーニン	7,134	K	1986. 8. 15	九山同人	ラズジ		
		f. レーニン	7,134	K	1988. 8. 14	労山	ラズジ		
		g. ハン・テングリ	7,010	H	1989. 8. 6	労山	ソロマ		
		h. ハン・テングリ	7,010	K	1991. 8. 2	労山	ボグレ		
		i. ボベータ	7,439	K	1991. 8. 14	労山	ヴァジ		
		j. チョー・オユー	8,201	C	1992. 9. 20	カトマンズクラブ	北西面	50歳と302日	
		k. シシャバンマC	8,008	C	1994. 5. 18	労山	北東稜	52歳と177日	
		l. ヌン	7,135	I	1995. 8. 16	労山	北西稜		
		m. ダウラギリ I	8,167	N	1995. 10. 6	労山	北東稜	53歳と318日	
		n. コルジェネフスカヤ	7,105	T	1996. 8. 14	労山	ツェト		
		o. リスム	7,050	C	1997. 5. 10	労山	東稜	初登頂	
		p. チョモランマ	8,848	C	1998. 5. 22	労山	北稜	56歳と181日	
		q. ナンガ・バルバット	8,126	P	1999. 7. 29	労山	西面	57歳と249日	
		r. ブロード・ピークM	8,051	P	2000. 7. 30	労山	西稜	58歳と250日	
		s. ガッシャーブルム II	8,035	P	2003. 8. 1	労山	南西稜	61歳と252日	

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
2	岩崎 洋 (118,320m) 16座 1960. 2. 生 (44歳) 初登頂2座 トラバース1座	a. マモストーン・カンリ I	7,526	I	1984. 9. 15	H A J	北東稜		2
		b. カルジャンN	7,216	C	1986. 10. 14	H A J	西壁	初登頂	
		c. ピラミッド・ピークM	7,123	I	1993. 4. 24	H A J	北東稜	初登頂	
		d. ティリッチ・ミールM	7,706	P	1995. 7. 7	バーバリアン	西稜		
		e. サトバントM	7,075	I	1995. 9. 13	雪と岩の会	北稜		
		f. ディラン	7,257	P	1996. 7. 24	バーバリアン	西稜	下部初登攀	
		g. ムスターグ・アタ M	7,546	C	1996. 9. 14		西稜		
		h. ブロード・ピークM	8,051	P	1997. 7. 16	群馬県山岳連盟	西稜		
		i. ムスターグ・アタM	7,546	C	1997. 9. 29		西稜		
		j. サイバル	7,031	N	1998. 10. 7	バーバリアン	北面	下部初登攀	
		k. スバンティーク	7,027	P	1999. 8. 17	バーバリアン	南東稜		
		l. ナムナニ	7,694	C	1999. 10. 25	H A J	北面	西面へ下降	
		m. スバンティーク	7,027	P	2000. 8. 15	H A J	南東稜		
		n. アビ	7,132	N	2001. 10. 8	バーバリアン	北面		
		o. ガッシャーブルム I	8,068	P	2002. 8. 5	H A J	北稜		
		p. パスー E	7,295	P	2003. 8. 18	H A J	東面		
3	田辺 治 (117,660m) 15座 1961. 1. 生 (43歳) 初登頂3座 冬期1座 ハット・トリック 1回	a. ラブチェ・カン	7,367	C	1987. 10. 26	H A J	西稜	初登頂	3
		b. ガッシャーブルム II	8,035	P	1990. 7. 26	イエティ 同人	南西稜		
		c. コルジェネフスカヤ	7,105	T	1991. 7. 17	東海山岳会	ツェト		
		d. イスモイル・ソモニ	7,495	T	1991. 7. 29	東海山岳会	ボロド		
		e. レーニン	7,134	K	1991. 8. 5	東海山岳会	ラズジ		
		f. ブロード・ピークM	8,051	P	1993. 8. 24	東海山岳会	西稜		
		g. チョー・オユー	8,201	C	1993. 10. 11	群馬県山岳連盟	北西面		
		h. サガルマータ	8,848	N	1993. 12. 20	群馬県山岳連盟	南西壁	ハット・トリック	
		i. ギャジ・カン	7,038	N	1994. 10. 7	信州大学	西稜	初登頂	
		j. マカルー I	8,463	C	1995. 5. 21	J A C	東稜下	初登攀	
		k. ラトナ・チュリ	7,035	N	1996. 10. 14	信州大学	西稜	初登頂	
		l. K 2	8,611	P	1997. 7. 19	J A C 東海			
		m. チョー・オユー	8,201	C	2001. 10. 9	J A C 東海	北西面		
		n. ガッシャーブルム I	8,068	P	2002. 8. 5	H A J	北稜		
		o. シンシャパンマC	8,008	C	2003. 10. 14	J A C 東海	北東稜		
4	×山田 昇 (115,804m) 14座 1950. 2. 生 初登頂2座 冬期3座 無酸素2座 ハット・トリック 2回	a. ダウラギリ I	8,167	N	1978. 10. 21	群馬県山岳連盟	南東稜		4
		b. カンチェンジュンガM	8,586	N	1981. 5. 9	H A J	南西面		
		c. ランタン・リ	7,205	N	1981. 10. 10	H A J	南西稜	初登頂	
		d. ダウラギリ I	8,167	N	1982. 10. 18	カモシカ 同人	北西稜	初登攀	
		e. ローツェ	8,516	N	1983. 10. 9	カモシカ 同人	西面	日本人初登	
		f. サガルマータ	8,848	N	1983. 12. 16	カモシカ 同人	南東稜	冬期第三登	
		g. マモストーン・カンリ I	7,526	I	1984. 9. 13	H A J	北東稜	初登頂	
		h. K 2	8,611	P	1985. 7. 24	H A J	南東稜	O <sub>2</sub> レス	
		i. サガルマータ	8,848	N	1985. 10. 30	植村直己 物語	南東稜	O <sub>2</sub> レス	
		j. マナスル	8,163	N	1985. 12. 14	カモシカ 同人	北東面	冬期第二登	

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	アルパイン・スタイル3座 トラバース1座	k. アンナプルナ I l. チョモランマ m. シシャパンマ n. チョー・オユー	8,091 8,848 8,027 8,201	N C C C	1987.12.20 1988.5.5 1988.10.24 1988.11.6	群馬県山岳連盟 J A C H A J H A J	南壁 北～南 北東稜 北西面	冬期初登攀 初縦断 ハット・トリック	
5	尾形好雄 (85,583m) 11座 1948.7.生 (56歳) 初登頂4座 冬期1座	a. ヒマルチュリW b. ヤルン・カン c. マモストーン・カンリ I d. ギャラ・ベリ e. リモ I f. ピラミッド・ピークM g. チョー・オユー h. サガルマータ i. サトパントM j. ガッシャーブルム II k. ブロード・ピークM	7,540 8,505 7,526 7,294 7,385 7,123 8,201 8,848 7,075 8,035 8,051	N N I C I I C N I P P	1978.5.7 1981.5.9 1984.9.15 1986.10.31 1988.7.28 1993.4.24 1993.10.8 1993.12.22 1995.9.13 1997.7.8 1997.7.20	雪と岩の会 H A J H A J H A J H A J H A J 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 雪と岩の会 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟	南西稜 南東面 北東稜 南稜 南壁 北東稜 北西面 南西壁 北稜 南西稜 西稜	初登頂 日本人初登 初登頂 初登頂 初登頂	5
6	×名塚秀二 (83,442m) 10座 1954.11.生 冬期1座	a. サガルマータ b. チョゴリ c. カンチェンジュンガM d. チョー・オユー e. サガルマータ f. ガッシャーブルム I g. ガッシャーブルム II h. シシャパンマM i. ブロード・ピークM j. ダウラギリ I	8,848 8,611 8,586 8,201 8,848 8,068 8,035 8,027 8,051 8,167	N C I C N P P C P N	1985.10.30 1990.8.9 1991.5.24 1993.10.8 1993.12.18 1997.7.7 1997.7.14 1999.10.29 2000.7.29 2001.10.11	植村直己物語 横浜山岳協会 H A J 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 前橋山岳会 群馬ミヤマ山岳会	南東稜 北西壁 北東稜 北西面 南西壁 北稜 南西稜 北東稜 西稜 北東稜	下部初登攀 冬期初登攀	6
7	山本篤 (80,731m) 9座 1962.10.生 (42歳) 初登頂1座	a. ラカボシE b. シシャパンマM c. チョー・オユー d. サガルマータ e. ナムチャ・バルワ f. マカルー I g. K 2 h. マナスル i. リャンカンカンリ j. アンナプルナ I	7,010 8,027 8,201 8,848 7,782 8,463 8,611 8,163 7,535 8,091	P C C N C C P N C N	1987.7.3 1988.10.24 1988.11.6 1989.10.13 1992.10.30 1995.5.21 1996.8.14 1997.10.8 1999.5.10 2003.5.16	明治大学 H A J H A J カトマンズクラブ J A C J A C J A C 明治大学 明治大学 明治大学	北稜 北東稜 北西面 南東稜 南壁 東稜 南南東稜 北東面 北稜 南壁	初登頂 下部初登攀	7
8	小西浩文 (77,274m) 10座 1962.3.生 (42歳)	a. コルジェネフスカヤ b. イスモイル・ソモニ c. シシャパンマC d. レーニン e. ハン・テングリ f. ブロード・ピークM	7,105 7,495 8,008 7,134 7,010 8,051	T T C K H P	1982.7.29 1982.8.5 1982.10.10 1988.8.14 1989.8.6 1991.7.30	高山研究所 高山研究所 高山研究所 イースト 群馬ミヤマ パINE/スキー	ツェト ボロド 北東稜 ラスジ ソロマ 西稜	20歳	8



順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
		g. ガッシャーブルムⅡ	8,035	P	1993. 7. 31	パイネニアソブ	南西稜		
		h. チョー・オユウ	8,201	C	1995. 5. 9	ガ イ ア	北西面		
		i. ダウラギリⅠ	8,167	N	1997. 5. 31	ガ イ ア	北東稜		
		j. ガッシャーブルムⅠ	8,068	P	1997. 7. 16	J A F M A	北 稜		
9	田部井 淳子 (76,360m) 10座 1939. 9. 生 (65歳)	a. アンナプルナⅢ	7,555	N	1970. 5. 19	女子登攀クラブ	南西面	女性初登頂  56歳と363日	9
		b. サガルマータ	8,848	N	1975. 5. 16	女子登攀クラブ	南東稜		
		c. シシャパンマM	8,027	C	1981. 4. 30	女子登攀クラブ	北東稜		
		d. コルジェネフスカヤ	7,105	T	1985. 7. 28	女子登攀クラブ	ツェト		
		e. イスマイル・ソモニ	7,495	T	1985. 8. 7	女子登攀クラブ	ボロド		
		f. レーニン	7,134	K	1985. 8. 15	女子登攀クラブ	ラズジ		
		g. ハン・テングリ	7,010	H	1994. 8. 12		ボグレ		
		h. チョー・オユウ	8,201	C	1996. 9. 10	国際公募隊	北西面		
		i. ポベータ	7,439	K	1999. 8. 11		ヴァジ		
		j. ムスターグ・アタ	7,546	C	2001. 8. 12		西 稜		
10	谷川 太郎 (74,661m) 9座 1967. 6. 生 (37歳)	a. ブロード・ピークM	8,051	P	1991. 7. 12	東京農業大学	西 稜	下部初登攀 初登攀	10
		b. ガッシャーブルムⅡ	8,035	P	1993. 7. 22	東京農業大学	南 稜		
		c. マカルーⅠ	8,463	C	1995. 5. 22	J A C	東 稜		
		d. ジンミゲラ・チュリ	7,350	N	1995. 10. 16	東京農業大学	西 稜		
		e. K 2	8,611	P	1996. 8. 12	J A C	南南東		
		f. カンチェンジュンガM	8,586	N	1998. 5. 15	J A C	北 面		
		g. チョー・オユウ	8,201	C	1999. 9. 28		北西面		
		h. ローツェ	8,516	N	2003. 5. 10	東京農業大学	西 面		
		i. サガルマータ	8,848	N	2003. 5. 22	東京農業大学	南東稜		
		j. マカルーⅡ	8,463	C	2003. 5. 22	東京農業大学	南東稜		
11	×野沢井 歩 (74,327m) 10座 1964. 8. 生 トラバース1座	a. ヌン	7,135	I	1992. 8. 13	H A J	西 稜	下部初登攀  西面下降	11
		b. ダウラギリⅠ	8,167	N	1993. 10. 6	ベルニナ山岳会	北東稜		
		c. プモ・リ	7,161	N	1994. 10. 21	バーバリアン	南 稜		
		d. ティリッチ・ミールM	7,706	P	1995. 7. 7	バーバリアン	西 稜		
		e. サイバル	7,031	N	1998. 10. 7	バーバリアン	北 面		
		f. スパンティーク	7,027	P	1999. 8. 15	バーバリアン	南東稜		
		g. ナムナニ	7,694	C	1999. 10. 25	H A J	北 面		
		h. ニンチン・カンサ	7,206	C	2001. 8. 15	H A J	西 稜		
		i. アピ	7,132	N	2001. 10. 6	バーバリアン	北 面		
		j. ガッシャーブルムⅠ	8,068	P	2002. 8. 5	H A J	北 稜		
12	尾崎 隆 (67,483m) 8座 1952. 9. 生 (52歳) 冬期 1座	a. ブロード・ピークM	8,051	P	1977. 8. 8	愛知学院大学	西 稜	第二登	12
		b. チョモランマ	8,848	C	1980. 5. 10	J A C	北西壁	下部初登攀	
		c. マナスル	8,163	N	1981. 10. 12	イエティ 同人	北東面		
		d. ローツェ	8,516	N	1983. 10. 9	カモシカ 同人	西 面	日本人初登	
		e. サガルマータ	8,848	N	1983. 12. 16	カモシカ 同人	南東稜	冬期第三登	
		f. カンチェンジュンガM	8,586	N	1984. 5. 19	J A C	南西面		
		g. シシャパンマC	8,008	C	1986. 9. 10	国際 隊	北東稜		
		h. マカルー	8,463	N	2001. 5. 12	ニュージーランド	北西稜		

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
13	×品川 幸彦 (66,842m) 9座 1968.2. 生	a. レーニン b. ハン・テングリ c. コルジェネフスカヤ d. イスマイル・ソモニ e. ハン・テングリ f. ボベータ g. ムスターグ・アタM h. ガッシャープルム I i. ガッシャープルム II	7,134 7,010 7,105 7,495 7,010 7,439 7,546 8,068 8,035	K H T T H K C P P	1992. 8. 12 1993. 8. 4 1994. 7. 28 1994. 8. 4 1995. 7. 30 1995. 8. 10 1996. 8. 13 1997. 7. 7 1997. 7. 14		ラズジ ソロマ ツェト ボロド ソロマ ヴァジ 西 稜 北 稜 南西稜		13
14	三谷 統一郎 (65,482m) 8座 1958.3. 生 (45歳) 初登頂1座 トラバース1回	a. アンナプルナ・ダクシン b. ダウラギリ I c. カンチェンジュンガM d. チョー・オユー e. サガルマータ f. ナムチャ・バルワ g. マナスル h. ローツェ	7,219 8,167 8,586 8,201 8,848 7,782 8,163 8,516	N N N N N C N N	1978.10.16 1982.10.17 1984. 5. 20 1985.10. 3 1989.10.13 1992.10.30 1997.10. 8 2002.10. 8	明 治 大 学 高 松 芳 山 J A C カトマンズクラブ カトマンズクラブ J A C 明 治 大 学 明 治 大 学	南西稜 北東稜 南西面 北西面 南東稜 南 壁 北東面 西 面	初登攀   日本人初登  初登頂	14
15	宮崎 勉 (64,712m) 8座 1947.11. 生 (57歳)	a. ダウラギリIV b. ダウラギリ I c. ローツェ d. カルジャンN e. チョー・オユー f. ガッシャープルム I g. ガッシャープルム II h. チョモランマ	7,661 8,167 8,516 7,216 8,201 8,068 8,035 8,848	N N N C C P P C	1975.10.21 1978.10.19 1983.10.10 1986.10.16 1993.10.12 1997. 7. 9 1997. 7. 14 2002. 5. 17	カモシカ同人 群馬県山岳連盟 カモシカ同人 H A J 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 桐生山岳会	南 面 南東稜 西 面 西 面 北西面 北 稜 南西稜 北 稜	初登攀      54歳と187日	15
16	後藤 文明 (63,466m) 8座 1965.5. 生 (39歳) 冬期 1座	a. プモ・リ b. サトパントM c. チョー・オユー d. サガルマータ e. ガッシャープルム II f. ブロード・ピークM g. シンヤパンマM h. ガッシャープルム I	7,161 7,075 8,201 8,848 8,035 8,051 8,027 8,068	N I C N P P C P	1987.10.13 1990. 8. 10 1993.10. 8 1993.12.18 1997. 7. 8 1997. 7. 20 1999.10.29 2002. 8. 5	境町山の会 H A J 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 H A J	南 稜 北 稜 北西面 南西壁 南西稜 西 稜 北東稜 北 稜	冬期初登攀	16
17	重廣 恒夫 (63,435m) 8座 1947.10. 生 (57歳) 初登頂1座 トラバース1回	a. ナンダデヴィ E b. K 2 c. ラトック I d. チョモランマ e. カンチェンジュンガC f. マッシャープルム E g. ブロード・ピークM h. ナイブン	7,434 8,611 7,145 8,848 8,482 7,821 8,051 7,043	I P P C N P P C	1976. 6. 9 1977. 8. 8 1979. 7. 19 1980. 5. 10 1984. 5. 18 1985. 7. 23 1985. 8. 12 1991.11.25	J A C J M A 京都カラコルムC J A C J A C 関西カラコルム 関西カラコルム J A C	南 稜 南東稜 南 稜 北西壁 南 稜 北西壁 西 稜 南西稜	第二登 初登頂 下部初登攀 Sから縦走 初登攀	17

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
18	江塚進介 (62,937m) 8座 1961.4.生 (43歳) 冬期1座 ハット・トリック 1回	a. コルジュネフスカヤ	7,105	T	1991. 7.17	東海山岳会	ツェト	ハット・トリック	18
		b. イスマイル・ソモニ	7,495	T	1991. 7.29	東海山岳会	ボロド		
		c. レーニン	7,134	K	1991. 8. 5	東海山岳会	ラズジ		
		d. ブロード・ピークM	8,051	P	1993. 8.24	東海山岳会	西稜		
		e. チョー・オユー	8,201	C	1993.10.11	群馬県山岳連盟	北西面		
		f. サガルマータ	8,848	N	1993.12.20	群馬県山岳連盟	南西壁		
		g. ガッシャーブルム I	8,068	P	1997. 7. 7	群馬県山岳連盟	北稜		
		h. ガッシャーブルム II	8,035	P	1997. 7.14	群馬県山岳連盟	南西稜		
19	今村裕隆 (61,954m) 8座 1959.4.生 (45歳) 初登頂1座	a. ギャラ・ベリ	7,294	C	1986.10.31	H A J	南稜	初登頂	19
		b. チョゴリ	8,611	C	1990. 8. 9	横浜山岳協会	北西壁	下部初登攀	
		c. カンチェンジュンガM	8,586	I	1991. 5.24	H A J	北東稜		
		d. マカルー I	8,463	N	1991.10. 5	ベルニナ山岳会	北西稜		
		e. ヌン	7,135	I	1992. 8.13	H A J	西稜		
		f. ティリッチ・ミールM	7,706	P	1995. 7. 7	バーバリアン	西稜		
		g. スパンティーク	7,027	P	1999. 8.15	バーバリアン	南東稜		
		h. アピ	7,132	N	2001.10. 6	バーバリアン	北面		
20	石川富康 (58,270m) 6座 1936.11.生 (68歳)	a. チョー・オユー	8,201	C	1991. 9.28	シルバータートル	北西面	54歳と310日	20
		b. サガルマータ	8,848	N	1994. 5.13	愛知学院大学	南稜	57歳と172日	
		c. ダウラギリ I	8,167	N	1994.10. 1	シルバータートル	北東稜	57歳と313日	
		d. シシャパンマC	8,008	C	1995. 9.26	Y M S	北東稜	58歳と308日	
		e. マナスル	8,163	N	1996. 9.27	登稜会	北東面	59歳と309日	
		f. ガッシャーブルム II	8,035	P	1998. 7.22	シルバータートル	南西稜	61歳と242日	
		g. チョモランマ	8,848	C	2002. 5.17	桐生山岳会	北稜	65歳と176日	
21	竹内洋岳 (57,760m) 7座 1971.1.生 (32歳) 初登頂1座	a. マカルー I	8,463	C	1995. 5.22	J A C	東稜下	初登攀	41
		b. チョモランマ	8,848	C	1996. 5.17	立正大学	北稜	初登頂	
		c. K 2	8,611	P	1996. 8.14	J A C	南南東		
		d. リャンカンカンリ	7,535	C	1999. 5. 9		北稜		
		e. ナンガ・バルバット	8,126	P	2001. 6.30	国際隊	西面		
		f. アンナプルナ I	8,091	N	2004. 5.29	国際隊	北面		
		g. ガッシャーブルム I	8,068	P	2004. 7.25	国際隊	北面		
22	北村俊之 (55,975m) 7座 1962.8.生 (42歳) トラバース1回	a. ブロード・ピークM	8,051	P	1995. 7.19	F O S	西稜		縦走
		b. バサン・ラム・チュリ	7,354	N	1996.10.19	大阪山の会	西稜	下部初登攀	
		c. ダウラギリ I	8,167	N	1997. 5.31	ガイヤ	北東稜		
		d. ガッシャーブルム I	8,068	P	1997. 7.16	J A F M A	北稜		
		e. ナンガ・バルバット	8,126	P	1998. 8. 5		西面		
		f. チョー・オユー	8,201	C	1999.10. 1	フェイス	北西面		
		g. シシャパンマC	8,008	C	2003.10.14	J A C 東海	北東稜		
23	高橋和宏 (57,019m) 7座 1973.10.生	a. K 2	8,611	P	1996. 8.14	J A C	南南東	初登頂	22
		b. マナスル	8,163	N	1997.10. 8	明治大学	北東面		
		c. リャンカンカンリ	7,535	C	1999. 5. 9		北稜		
		d. ガッシャーブルム II	8,035	P	2001. 7.10	明治大学	南西稜		

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	(31歳) 初登頂1座	e. ガッシャーブルム I f. ローツェ g. アンナブルナ I	8,068 8,516 8,091	P N N	2001. 8. 13 2002. 10. 3 2003. 5. 16	明 治 大 学 明 治 大 学 明 治 大 学	北 稜 西 面 南 壁		
24	渡 辺 玉 枝 (56,752m) 6 座 1938. 11. 生 (66歳)	a. チョー・オユー b. ダウラギリ I c. ガッシャーブルム II d. ボベータ e. ムスターグ・アタ f. サガルマータ g. ローツェ	8,201 8,167 8,035 7,439 7,546 8,848 8,516	C N P T C N N	1991. 9. 28 1994. 10. 1 1998. 7. 22 1999. 8. 11 2001. 8. 12 2002. 5. 16 2004. 5. 15	シルバータートル シルバータートル シルバータートル 雪 豹 ク ラ ブ	北西面 北東稜 南西稜 ヴェジ 西 稜 南東稜 西 面	52歳と311日 55歳と314日 59歳と243日 63歳と176日 64歳と176日	34
25	倉 橋 秀 都 (55,645m) 7 座 1960. 2. 生 (44歳)	a. ハン・テングリ b. ボベータ c. シシャバンマ C d. チョモランマ e. ナンガ・バルバット f. ブロード・ピーク M g. マナスル	7,010 7,439 8,008 8,848 8,126 8,051 8,163	K K C C P P N	1991. 8. 2 1991. 8. 14 1994. 5. 18 1998. 5. 18 1999. 7. 27 2000. 7. 26 2001. 10. 9	労 山 労 山 労 山 労 山 労 山 労 山 労 山	ボグレ ヴェジ 北東稜 北 稜 西 面 西 稜 北東面		23
26	山 野 井 妙 子 (54,870m) 7 座 1956. 3. 生 (48歳) 無酸素1座 アルパイン・ スタイル1座	a. イスモイル・ソモニ b. レーニン c. イスモイル・ソモニ d. ブロード・ピーク M e. マカルー I f. ガッシャーブルム II g. チョー・オユー	7,495 7,134 7,495 8,051 8,463 8,035 8,201	T K T P N P C	1985. 7. 28 1985. 8. 6 1986. 8. 2 1991. 7. 30 1991. 10. 7 1993. 7. 31 1994. 9. 25	高 山 研 究 所 高 山 研 究 所 高 山 研 究 所 パイネ/スキー ベルニナ山岳会 パイネニアソブ	ボロド ラズジ ボロド 西 面 北西稜 南西稜 南西壁	O <sub>2</sub> レス AP	24
27	山 本 宗 彦 (54,822m) 7 座 1959. 12. 生 (45歳)	a. レーニン b. イスモイル・ソモニ c. マッシャーブルム E d. ブロード・ピーク M e. ラカボシ E f. チョモランマ g. マカルー I	7,134 7,495 7,821 8,051 7,010 8,848 8,463	K T P P P C C	1983. 7. 27 1983. 8. 6 1985. 7. 23 1985. 8. 12 1987. 7. 3 1988. 5. 5 1995. 5. 22	J A C J A C 関西カラコルム 関西カラコルム 明 治 大 学 J A C J A C	ラズジ ボロド 北西壁 西 稜 北 稜 北 稜 東稜下	初登攀	25
28	村 口 徳 行 (51,943m) 5 座 1956. 5. (48歳)	a. チョモランマ b. ガッシャーブルム II c. サガルマータ d. サガルマータ e. ローツェ f. サガルマータ	8,848 8,035 8,848 8,848 8,516 8,848	C P N N N N	1998. 5. 19 1998. 7. 22 2002. 5. 16 2003. 5. 1 2004. 5. 15 2004. 5. 24	テ レ ビ 朝 日 シルバータートル 雪 彩 三 浦 雪 彩	北 稜 南西稜 南東稜 南東稜 西 面 南東稜	4 回 目	
29	鈴 木 正 典 (51,599m) 7 座	a. ピラミッド・ピーク M b. マナ NW c. ディラン	7,123 7,092 7,257	I I P	1993. 4. 26 1995. 8. 19 1996. 7. 24	H A J 山 形 バーバリアン	北東稜 南東稜 西 稜	初登頂 下部初登攀	26



順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	1961. 11. 生 (43歳) 初登頂1座	d. ムスターグ・アタM e. ムスターグ・アタM f. スパンティーク g. シンジャパンマC	7,546 7,546 7,027 8,008	C C P C	1996. 9. 14 1998. 8. 1 2000. 8. 14 2003. 10. 14	浪 岩・山 H A J J A C 東海	西稜 西稜 南東稜 北東稜		
30	遠藤晴行 (54,811m) 7座 1957. 2. 生 (46歳) 無酸素1座 AP	a. サガルマータ b. コルジェネフスカヤ c. イスマイル・ソモニ d. レーニン e. ナンガ・バルバット f. ガッシャーブルムI g. ガッシャーブルムII	8,848 7,105 7,495 7,134 8,126 8,068 8,035	N T T K P P P	1983. 10. 8 1985. 7. 20 1985. 7. 28 1985. 8. 6 1988. 7. 12 1989. 7. 12 1990. 7. 2	イエティ同人 高山研究所 高山研究所 高山研究所 高山研究所 高山研究所 イエティ同人	南東稜 ツェト ボロド ラズジ 西面 北稜 南西稜	O <sub>2</sub> レス	27
31	高橋堅 (51,553m) 7座 1958. 8. 生 (44歳) 初登頂1座	a. ネムジュン b. ガッシャーブルムII c. コルジェネフスカヤ d. イスマイル・ソモニ e. レーニン f. ディラン g. ウルタルII	7,139 8,035 7,105 7,495 7,134 7,257 7,388	N P T T K P P	1983. 10. 27 1985. 7. 28 1988. 7. 22 1988. 7. 30 1988. 8. 7 1989. 7. 12 1996. 7. 31	弘前大学 横浜蝸牛山岳会 弘前大学 弘前大学 弘前大学 弘前大学 カトマンズクラブ	東稜 南西稜 ツェト ボロド ラズジ 北稜 南稜	初登頂 初登攀 初登攀	28
32	林雅樹 (51,380m) 7座 1963. 11. 生 (40歳)	a. コルジェネフスカヤ b. イスマイル・ソモニ c. レーニン d. ハン・テングリ e. ポベータ f. ガッシャーブルムI g. パルンツェ	7,105 7,495 7,134 7,010 7,439 8,068 7,129	T T K H K P N	1990. 7. 24 1990. 8. 1 1990. 8. 7 1994. 8. 11 1994. 8. 22 1996. 7. 30 2000. 10. 17	京都クライマーズC 京都クライマーズC 京都クライマーズC 京都クライマーズC 京都クライマーズC 京都クライマーズC 京都クライマーズC	ツェト ボロド ラズジ ソロマ ヴァジ 北稜 南東稜		29
33	石川龍彦 (50,791m) 7座 1952. 2. 生 (52歳)	a. レーニン b. コルジェネフスカヤ c. イスマイル・ソモニ d. ムスターグ・アタM e. ニンチン・カンサ f. ハン・テングリ g. パサーE	7,134 7,105 7,495 7,546 7,206 7,010 7,295	K T T C C T P	1983. 8. 2 1985. 7. 29 1985. 8. 6 1996. 8. 17 1997. 8. 18 2000. 7. 30 2003. 8. 18	関西西 H A J H A J H A J	ラズジ ツェト ボロド 西稜 南西稜 東面		32
34	坂原忠清 (50,130m) 7座 1944. 10. 生 (60歳) 初登頂2座	a. ムスターグ・アタN b. ヌン c. レーニン d. ハン・テングリ e. ポベータ f. ニンチン・カンサ g. チョー・シャブ	7,184 7,135 7,134 7,010 7,439 7,206 7,022	C I K K K C C	1981. 8. 7 1982. 8. 15 1988. 8. 17 1991. 8. 10 1996. 8. 3 2000. 8. 9 2004. 8. 6	スピダーニエ スピダーニエ スピダーニエ 日本教員 日本教員 日本教員 日本教員	北面 西稜 ラズジ ボグレ ヴァジ 東稜 北西面	初登頂 単独 初登頂	33
35	長久保浩司 (49,561m)	a. ガッシャーブルムII b. ジンミゲラ・チュリ	8,035 7,350	P N	1993. 7. 22 1995. 10. 16	東京農業大学 東京農業大学	南稜 西稜	初登攀	31

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	6座 1969.4. 生 (35歳)	c. K 2 d. チョー・オユー e. ローツェ f. サガルマータ	8,611 8,201 8,516 8,848	P C N N	1996. 8. 14 1999. 9. 28 2003. 5. 10 2003. 5. 22	J A C 東京農業大学 東京農業大学	南々東リブ 北西面 西面 南東稜		
36	×星野 龍史 (48,567m) 6座 1967.11. 生 冬期 1座	a. チョー・オユー b. サガルマータ c. ウルタルII d. ガッシャーブルムI e. ガッシャーブルムII f. シシャパンマM	8,201 8,848 7,388 8,068 8,035 8,027	C N P P P C	1993.10. 8 1993.12. 22 1996. 7. 31 1997. 7. 7 1997. 7. 14 1999.10. 29	群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 カトマンズクラブ 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟	北西面 南西壁 南稜 北稜 南西 北東稜	初登攀	32
37	加藤 慶信 (48,408m) 6座 1976.1. 生 (28歳) 初登頂1座	a. マナスル b. リャンカンカンリ c. ガッシャーブルムII d. ガッシャーブルムI e. ローツェ f. アンナプルナI	8,163 7,535 8,035 8,068 8,516 8,091	N C P P N N	1997.10. 8 1999. 5. 9 2001. 7. 10 2001. 8. 13 2002.10. 3 2003. 5. 16	明治大学 明治大学 明治大学 明治大学 明治大学	北東面 北稜 南西稜 北稜 西面 南壁	初登頂	36
38	高橋 和之 (46,112m) 6座 1943.1. 生 (61歳)	a. ダウラギリIV b. ローツェ c. コルジェネフスカヤ d. イスモイル・ソモニ e. レーニン f. チョー・オユー	7,661 8,516 7,105 7,495 7,134 8,201	N N T T K C	1975.10. 19 1983.10. 11 1985. 7. 21 1985. 7. 28 1985. 8. 6 1987. 9. 21	カモシカ同人 カモシカ同人 高山研究所 高山研究所 高山研究所 カモシカ同人	南面 西面 ツェト ポロド ラズジ 北西面	バラバント	37
39	青田 浩 (45,503m) 6座 1958.1. 生 (46歳) 初登頂1座	a. アンナプルナI b. レーニン c. プモ・リ d. ナムチャ・バルワ e. レーニン f. チョー・オユー	8,091 7,134 7,161 7,782 7,134 8,201	N K N C K C	1981.10. 29 1984. 8. 2 1986.12. 5 1992.10. 30 1999. 8. 5 2002.10. 1	イエティ同人 カモシカ同人 J A C J A C	南壁 ラズジ 北東稜 南面 ラズジ 北西面	初登攀 初登頂	38
40	大神田伊曾美 (44,219m) 6座 1944.5. 生 (60歳)	a. コルジェネフスカヤ b. レーニン c. チョー・オユー d. スパンティーク e. ムスターグ・アタ f. ニンチン・カンサ	7,105 7,134 8,201 7,027 7,546 7,206	T K C P C C	1996. 8. 14 1998. 8. 13 1999. 9. 26 2000. 8. 15 2001. 8. 12 2004. 8. 6	労山 労山 フ ァ イ ト H A J	ツェト ラズジ 北西面 南東稜 西稜 南西稜	55歳と145日	39
41	原 真 (43,952m) 6座 1936.8. 生 (68歳)	a. コルジェネフスカヤ b. コルジェネフスカヤ c. シシャパンマC d. コルジェネフスカヤ e. イスモイル・ソモニ f. レーニン	7,105 7,105 8,008 7,105 7,495 7,134	T T C T T K	1976. 8. 7 1982. 7. 31 1982.10. 10 1985. 7. 21 1985. 7. 29 1985. 8. 6	J A C 東海 高山研究所 高山研究所 高山研究所 高山研究所 高山研究所	ツェト ツェト 北東稜 ツェト ポロド ラズジ		40
42	×小口 順史	a. ハン・テングリ	7,010	H	1992. 8. 10	東農工大	北面		41

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	(43,634m) 6座 1968.8.生	b.ハン・テングリ c.ポベータ d.レーニン e.ムスターグ・アタ f.イスモイル・ソモニ	7,010 7,439 7,134 7,546 7,495	H K K C T	1997.8.6 1997.8.17 1999. 2001.8.11 2003.8.12	太陽と風 太陽と風	北面 西稜 ラズジ 西稜 ボロド		
43	×加藤 保男 (42,523m) 5座 1949.3.生 冬期 1座	a.サガルマータ b.ナンダデヴィM c.チョモランマ d.マナスル e.サガルマータ	8,848 7,816 8,848 8,163 8,848	N I C N N	1973.10.26 1976.6.15 1980.5.3 1981.10.14 1982.12.27	R C C II J A C J A C イエティ 同人 イエティ 同人	南東稜 南稜 北稜 北東面 南東稜	秋期初登頂 冬期第二登	39
44	×三枝 照雄 (42,015m) 5座 1957.10.生 冬期 1座 AP	a.サガルマータ b.アンナブルナ I c.チョモランマ d.シシャパンマM e.チョー・オユー	8,848 8,091 8,848 8,027 8,201	N N C C C	1985.10.30 1987.12.20 1988.5.5 1988.10.24 1988.11.6	植村直己物語 群馬県山岳連盟 J A C H A J H A J	南東稜 南壁 北稜 北東稜 北西面	冬期初登攀 ハット・トリック	40
45	吉田 裕一 (41,360m) 5座 1970.8.生 (34歳)	a.ガッシャーブルム II b.ジンミゲラ・チュリ c.K 2 d.ローツェ e.サガルマータ	8,035 7,350 8,611 8,516 8,848	P N P N N	1993.7.22 1995.10.16 1996.8.12 2003.5.10 2003.5.22	東京農業大学 東京農業大学 J A C 東京農業大学 東京農業大学	南稜 西稜 南々東リブ 西面 南東稜	初登攀	42
46	山野井 泰史 (40,883m) 5座 1965.4.生 (39歳)	a.ブロード・ピークM b.ガッシャーブルム II c.チョー・オユー d.K 2 e.ギャチュン・カン	8,051 8,035 8,201 8,611 7,985	P P C P C	1991.7.30 1993.7.31 1994.9.23 2000.7.30 2002.10.8	バイネニアソブ バイネニアソブ 同人バハール	西稜 南西稜 南西壁 南々東リブ 北壁	単独初登攀 単独	43
47	大蔵 喜福 (40,362m) 5座 1951.2.生 (53歳)	a.ダウラギリ II b.チョー・オユー c.チョー・オユー d.チョー・オユー e.シシャパンマC	7,751 8,201 8,201 8,201 8,008	N C C C C	1979 1987.9.21 2002.10.1 2003.9.28 2004.9.27	カモシカ 同人 カモシカ 同人 アドベンチャー アドベンチャー アドベンチャー	北西面 北西面 北西面 北東稜	51歳と235日 52歳と232日 53歳と262日	
48	谷口 守 (39,800m) 5座 1948.12.生 (56歳)	a.ナンガ・バルバット b.ブロード・ピークM c.チョー・オユー d.ガッシャーブルム I e.バサン・ラム・チュリ	8,126 8,051 8,201 8,068 7,354	P P C P N	1983.7.31 1988.8.13 1992.9.20 1994.8.12 1996.10.19	富山県山岳連盟 富山県山岳連盟 カトマンズクラブ 富山県山岳連盟 大阪山の会	西面 西稜 北西面 北稜 西稜	日本人初登 下部初登攀	44
49	奥田 仁一 (39,233m) 5座 1966.9.生 (38歳)	a.カンチェンジュンガM b.ニンチン・カンサ c.チョー・オユー d.ムスターグ・アタ e.ナムナニ	8,586 7,206 8,201 7,546 7,694	N C C C C	1998.5.15 1999.5.30 1999.9.28 2001.8.11 2001.9.25	J A C J A C J A C 関西大学	北壁 南西稜 北西面 西稜 西面		45

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
50	×佐藤 正倫 (39,161m) 5座 1963. 8. 生 初登頂2座	a. 7,167m峰	7,167	C	1986. 8. 16	東京農業大学	南東面	初登頂	46
		b. ナンガ・パルバット	8,126	P	1990. 7. 24	バイネニアソブ	西面		
		c. ブロード・ピークM	8,051	P	1991. 7. 12	東京農業大学	西稜		
		d. ナムチャ・バルワ	7,782	C	1992. 10. 30	J A C	南壁		
		e. ガッシャーブルムII	8,035	P	1993. 7. 22	東京農業大学	南稜		
51	林 孝治 (39,083m) 5座 1951. 9. 生 (53歳)	a. シジャパンマC	8,008	C	1994. 5. 18	労山	北東稜	51歳と356日	47
		b. ダウラギリI	8,167	N	1995. 10. 16	労山	北東稜		
		c. ムスタグ・アタ	7,546	C	1996. 8. 17	大阪労山	西稜		
		d. プモ・リ	7,161	N	1998. 10. 22	大阪労山	南東稜		
		e. チョー・オユー	8,201	C	2003. 9. 21	カラクラン	北西面		
52	和田 城志 (39,025m) 5座 1949. 10. 生 (55歳) 初登頂1座	a. ゲントII	7,342	P	1978. 7. 15	関西学生岳連	北面	初登頂	48
		b. ランタン・リルン	7,225	N	1978. 10. 24	大阪市立大学	南東面		
		c. カンチェンジュンガM	8,586	N	1984. 5. 20	J A C	南西面		
		d. マッシャーブルムE	7,821	P	1985. 7. 23	関西カラコルム	北西壁		
		e. ブロード・ピークM	8,051	P	1985. 8. 12	関西カラコルム	西稜		
53	上野 幸人 (38,948m) 5座 1954. 1. 生 (50歳)	a. イスモイル・ソモニ	7,495	T	1986. 8. 2	高山研究所	ポロド	初登頂	49
		b. ダウラギリI	8,167	N	1994. 9. 27				
		c. チョー・オユー	8,201	C	1995. 9. 29	秋田	北西面		
		d. リスム	7,050	C	1997. 5. 10	労山	北稜		
		e. ガッシャーブルムII	8,035	P	2003. 8. 1	労山	南西稜		
54	保坂 昭憲 (38,860m) 5座 1948. 2. 生 (56歳)	a. カンチェンジュンガM	8,586	N	1981. 9. 9	H A J	南西面	52歳と90日	50
		b. スン	7,135	I	1983. 9. 14	こまくさ山岳会	西稜		
		c. カルジャンN	7,216	C	1986. 10. 16	H A J	西壁		
		d. サトバントM	7,075	I	1990. 8. 10	H A J	北稜		
		e. チョモランマ	8,848	C	2000. 5. 17	東北海登研	北稜		
55	東條 真百合 (37,936m) 5座 1955. 6. 生 (49歳)	a. コルジュネフスカヤ	7,105	T	1985. 7. 28	女子登攀クラブ	ツェト	初登攀	51
		b. イスモイル・ソモニ	7,495	T	1985. 8. 7	女子登攀クラブ	ポロド		
		c. レーニン	7,134	K	1985. 8. 15	女子登攀クラブ	ラズジ		
		d. ガッシャーブルムII	8,035	P	1988. 8. 8	女子登攀クラブ	南西稜		
		e. ダウラギリI	8,167	N	1990. 10. 9	女子登攀クラブ	北東稜		
56	吉村 哲明 (37,042m) 5座 1961. 7. 生 (43歳)	a. コルジュネフスカヤ	7,105	T	1988. 7. 22	弘前大学	ツェト	初登攀	52
		b. イスモイル・ソモニ	7,495	T	1988. 7. 30	弘前大学	ポロド		
		c. レーニン	7,134	K	1988. 8. 7	弘前大学	ラズジ		
		d. ディラン	7,257	P	1989. 7. 12	弘前大学	北稜		
		e. ブロード・ピークM	8,051	P	1991. 7. 30	バイネ/スキー	西稜		
57	高橋 純一 (37,021m) 5座 1948. 11. 生 (56歳)	a. イスモイル・ソモニ	7,495	T	1977. 8. 8	H A J	ポロド	初登攀	53
		b. シア・カンリ	7,422	P	1979. 7. 30	京都カラコルムC	南西面		
		c. ムスタグ・アタN	7,184	C	1981. 8. 14	スピダーニェ	北面		
		d. リモI	7,385	I	1988. 7. 30	H A J	南壁		
		e. リャンカンカンリ	7,535	C	1999. 5. 10		北稜		



順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
58	×高橋 敏雄 (36,428m) 5座 1958.10. 生	a. チョー・アウイ	7,354	C	1986.10.14	H A J	北西稜		55
		b. ムスターグ・アタ	7,546	C	1993. 8.17	H A J	西 稜		
		c. ニンチン・カンサ	7,206	C	1997. 8.17	H A J	南西稜		
		d. スバンティーク	7,027	P	2000. 8.14	H A J	南東稜		
		e. パスーE	7,295	P	2003. 8.18	H A J	東 面		
59	松本 正城 (36,362m) 5座 1948.11. 生 (56歳)	a. クン	7,077	I	1981. 8.27	R C C II	東 稜		56
		b. ヌン	7,135	I	1982. 8.18	東京山岳協会	北西稜		
		c. ガッシュャーブルムII	8,035	P	1985. 7.28	横浜蝸牛山岳会	南西稜		
		d. コルジェネフスカヤ	7,105	T	1988. 7.30		南東面		
		e. ハン・テングリ	7,010	H	1989. 8.15		ソロマ		
60	山中 芳樹 (35,819m) 5座 1950. 9. 生 (54歳)	a. イスマイル・ソモニ	7,495	T	1986. 8. 3	N C P	ボロド		58
		b. コルジェネフスカヤ	7,105	T	1986. 8. 9	N C P	ツェト		
		c. レーニン	7,134	K	1986. 8.15	N C P	ラズジ		
		d. ハン・テングリ	7,010	H	1989. 8.15	労 山	ソロマ		
		e. サトパントM	7,075	I	1994. 9.24	労 山	北 稜		

※地域の略号 N=ネパール、C=中国、P=パキスタン、I=インド、H=カザフ、K=キルギス、  
T=タジキスタン

■ 4座登頂者（備考の数字は8,000m峰登頂数

\*印はエヴェレスト登頂者)

順位	氏名	生年月日	獲得標高	備考
61	川村 晴一	1947.12. 生	33,755m	3 *
62	貫田 宗男	1951. 3. 生	33,151m	3 *
63	広瀬 健太	1970. 1. 生	33,300m	3 *
64	八木原 罔明	1946.11. 生	33,215m	3 *
65	戸高 雅史	1965. 4. 生	32,823m	4
66	森 章一	1975. 4. 生	32,710m	4
67	天野 和明	1977. 2. 生	32,710m	4
68	坂本 正治	1959.10. 生	32,670m	3 *
69	吉田 文江	1955.10. 生	32,454m	4
70	遠藤 由加	1966. 1. 生	32,430m	4
71	大谷 映芳	1947. 4. 生	32,138m	2
72	鈴木 幹夫	1967. 3. 生	32,115m	3
73	×小西政継	1938.11. 生	32,048m	3
74	八嶋 寛	1950. 3. 生	31,827m	3 *
75	中島 俊弥	1964.12. 生	31,696m	2 *
76	×斎藤安平	1953. 1. 生	31,431m	3
77	鈴木 清彦	1957. 2. 生	31,401m	2
78	×二上純一	1951.12. 生	31,166m	1 *

順位	氏名	生年月日	獲得標高	備考
79	重野太肚二	1943. 4. 生	31,100m	2
80	鈴木 孝雄	1938. 5. 生	30,865m	3
81	富田 雅昭	1956. 6. 生	30,771m	2
82	飛田 和夫	1946. 1. 生	30,377m	1
83	千葉 孝義	1945. 9. 生	30,027m	1
84	早川 晃生	1956. 7. 生	29,941m	1
85	田村 正勝	1942. 4. 生	29,938m	1
86	金沢 健	1945.10. 生	29,935m	1
87	柳沢 伸子	1950.10. 生	29,769m	1
88	古関 正雄	1961. 3. 生	29,767m	1
89	中川 裕	1960. 8. 生	29,302m	0
90	安藤 昌之	1955.11. 生	29,280m	0
91	新郷 信廣	1943. 3. 生	29,250m	0
92	黒滝 淳二	1952.10. 生	29,116m	0
93	佐藤 英樹	1948. 4. 生	28,994m	0
94	堀 弘	1957. 8. 生	28,991m	0
95	黒沢 孝夫		28,744m	0
96	川崎 浩史	1964. 1. 生	28,464m	0
97	×北沢真一	1952. 2. 生	28,259m	0
98	村上 和也	1955. 3. 生	25,975m	3 *

■ 3 座登頂者

順位	氏名	生年月日	獲得標高	備考
99	×吉野 寛	1950.2. 生	25,626m	3 *
100	×秃 博信	1951.10. 生	25,626m	3 *
101	矢野 利明	1952.11. 生	25,510m	3 *
102	続 素美代	1967.12. 生	25,250m	3 *
103	近藤 謙司	1962.6. 生	25,250m	2 *
104	鈴木 昇己	1953.2. 生	25,144m	2 *
105	中村 省禰	1942.5. 生	25,120m	2 *
106	澤田 実	1968.7. 生	25,141m	3 *
107	佐藤 光由	1961.4. 生	25,100m	3 *
108	安村 淳	1946.8. 生	25,057m	3 *
109	井本 重喜	1963.1. 生	24,942m	2 *
110	坂下 直枝	1947.2. 生	24,907m	2
111	×根津皖一	1939.12. 生	24,403m	3
112	×大西 宏	1962.5. 生	24,321m	2 *
113	河野千鶴子	1946.10. 生	24,217m	2 *
114	早川 敦	1973.8. 生	24,194m	3
115	菊池 守	1955.5. 生	24,180m	2 *
116	工藤 寛	1966.6. 生	24,172m	2 *
117	橋本 久	1952.10. 生	24,017m	2 *
118	賀集 信	1949.1. 生	23,998m	1
119	中村 和貞	1973.10. 生	23,923m	2
120	川原 慶紀	1940.11. 生	23,866m	2 *
121	九里 徳泰	1965.3. 生	23,755m	2
122	大久保由美子	1968.12. 生	23,744m	2
123	大宮 求	1949.4. 生	23,639m	2
124	×高見和成	1945.5. 生	23,595m	1
125	×小松幸三	1954.5. 生	23,579m	1
126	中西 紀夫	1958.3. 生	23,546m	2
127	中村 進	1946.1. 生	23,488m	1 *
128	加藤 幸彦	1933.1. 生	23,479m	1
129	小笠原岩雄	1952.11. 生	23,436m	2
130	棚橋 靖	1963.1. 生	23,357m	2
131	吉田 憲司	1953.1. 生	23,300m	1
132	×日野悦郎	1940.5. 生	23,270m	2
133	桑原 巖	1935.11. 生	23,185m	2
134	池田 壮彦	1946.10. 生	23,144m	2
135	永田 幸一	1957.12. 生	23,088m	1 *
136	島方 健次	1947.12. 生	23,040m	1
137	平林 克敏	1934.12. 生	23,011m	1 *

順位	氏名	生年月日	獲得標高	備考
138	×廣島三朗	1943.3. 生	22,998m	1
139	松林 公蔵	1950.5. 生	22,983m	1
140	×小林利明	1948.12. 生	22,939m	1
141	坂井 広志	1957.2. 生	22,916m	1
142	×角田不二	1952.9. 生	22,760m	1
143	角谷 道弘	1963.10. 生	22,746m	1
144	×榊原義夫	1953.11. 生	22,743m	1
145	大谷 亮	1959.9. 生	22,721m	1
146	小林 新二	1956.10. 生	22,718m	1
147	真嶋 花子	1949.2. 生	22,650m	1
148	駒宮 博男	1954.5. 生	22,637m	1
149	平出 和也	1979.5. 生	22,609m	1
150	服部 徹	1970.1. 生	22,500m	1
151	吉田 秀樹	1953.5. 生	22,446m	1
152	小泉 章夫	1955.11. 生	22,401m	1
153	広瀬 学	1967.3. 生	22,311m	1
154	佐々木穂高	1972.6. 生	22,311m	1
155	岡林 良一	1951.11. 生	22,271m	1
156	横山 英雄	1942.4. 生	22,122m	0
157	志小田美弘	1959.1. 生	22,106m	0
158	金子 秀一	1959.10. 生	21,946m	0
159	金子 珠美	1958.4. 生	21,946m	0
160	古谷 朋之	1972.8. 生	21,853m	0
160	天城 敏彦	1947.5. 生	21,827m	0
160	橋本 康弘	1954.8. 生	21,796m	0
163	燕昇司 実	1942.8. 生	21,757m	0
163	関根 幸次	1933.10. 生	21,756m	0
163	三原 洋子	1941.5. 生	21,755m	0
163	×井波美保	1957.1. 生	21,734m	0
167	松永 忠則		21,734m	0
168	鴨川 正昭		21,734m	0
169	斉藤 正		21,734m	0
170	入瀬 透		21,734m	0
171	横森 健治		21,734m	0
172	梶山 正		21,734m	0
173	×山崎彰人	1967.7. 生	21,721m	0
174	橋口 徹	1970.6. 生	21,667m	0
175	水谷 寿宏	1964.4. 生	21,583m	0
176	武部 秀夫	1952.12. 生	21,562m	0
177	加藤 和美	1953.2. 生	21,511m	0

順位	氏名	生年月日	獲得標高	備考
178	石澤 好文	1951.11. 生	21,495m	0
179	保坂 巖	1955. 1. 生	21,476m	0
180	溝手 康史	1955. 5. 生	21,465m	0
181	花井 修	1952. 1. 生	21,363m	0
182	井上 仁	1958.11. 生	21,249m	0

■八千メートル峰 2 座登頂者

順位	氏名	生年月日	獲得標高	備考
183	×椎名厚史	1970. 6. 生	17,197m	2
184	×赤坂謙三	1968. 4. 生	17,197m	2
185	松原 尚之	1965. 3. 生	17,074m	2
186	木本 哲	1956. 2. 生	17,049m	2 *
187	野口 健	1973. 8. 生	17,049m	2 *
188	荻尾 雄二	1972. 7. 生	17,049m	2 *
189	田中 敏雄	1955. 8. 生	17,049m	2 *
190	山本 俊雄	1936. 7. 生	17,049m	2 *
191	山田 淳	1979. 5. 生	17,049m	2 *
192	佐藤 信二	1950. 7. 生	17,049m	2 *
193	三浦雄一郎	1932.10. 生	17,049m	2 *
194	三浦 豪太	1969. 8. 生	17,049m	2 *
195	高島 聡	1965. 7. 生	17,049m	2 *
196	荒木富美雄	1949. 9. 生	17,049m	2 *
197	高橋 和夫	1957. 2. 生	17,049m	2 *
198	×太田祥子	1941. 3. 生	17,049m	2 *
199	倉岡 裕之		17,049m	2 *
200	斎藤 鐘吉		17,049m	2 *
201	田中 基喜	1948. 7. 生	17,011m	2 *
202	花田 博志	1960. 3. 生	16,974m	2 *
203	瀧根 正幹	1951.10. 生	16,812m	2
204	鈴木 茂	1955. 1. 生	16,753m	2
205	山本 秀夫	1949.12. 生	16,737m	2
206	望月 泰彦	1960. 2. 生	16,741m	2
207	清野 嘉樹	1962. 4. 生	16,741m	2
208	×柳沢幸弘	1955. 2. 生	16,702m	2
209	稲葉 英樹	1964. 3. 生	16,679m	2
210	松本 政英	1963. 7. 生	16,662m	1
211	小野 岳	1960. 7. 生	16,589m	2
212	福島 正明	1950.10. 生	16,511m	2
213	池田 錦重	1938.11. 生	16,368m	2
214	清水 修	1958. 4. 生	16,269m	2

順位	氏名	生年月日	獲得標高	備考
215	加藤 智二	1960. 5. 生	16,236m	2
216	荒山 孝郎	1935.10. 生	16,209m	2
217	片山 右京	1963. 5. 生	16,209m	2
218	谷山 宏典	1979. 2. 生	16,103m	2
219	×福本誠志	1973.12. 生	16,078m	2
220	辻 美行	1947. 6. 生	16,089m	2

■ 2 座登頂者（上記を除く）

古野淳、×植村直己、×藤倉和美、泉田清幸、深田良一、×坂野俊孝、高橋留智亜、重川英介、阿部訟二、熱田渉、佐藤賢、中川邦仁、小野寺正英、西堤理一、外山哲也、×二俣勇司、片岡邦夫、斎藤惇生、牧野総治郎、恩田真砂美、斎藤勤、小田隆三、×俵谷久義、酒井國光、寺本正史、南井英弘、藤田耕史、富永浩三、松沢哲郎、中山茂樹、白沢あずみ、小椋成人、茂木康枝、柳原武彦、米山悟、×須藤建志、佐藤由紀、白岩靖子、松井公治、寺田勉、高橋尚子、森真平、宮川清明、花谷泰広、×小川信之、北村誠一、×早川敬二郎、内田敏子、倉井登代、東英樹、安田越郎、長谷川良典、高橋克昌、大谷篤、松原繁、加藤博、中村貴士、三野和哉、内田健二、宮崎豊文、×原田達也、西嶋鍊太郎、×河津士郎、山田誠、宮本義彦、×土森讓、北条治男、武藤英生、山本一夫、浜名純、吉村千春、矢田康史、西村秋二、我妻研、×寺西洋治、×松見新衛、×松岡清司、堤信夫、平川宏子、河野広茂、小林久二彦、大沼巧、居田勝美、内山純一、西俊徳、足利義興、田辺渡志夫、×河野兵市、倉沢英子、×鈴木章、両角繁、河野照行、大橋政樹、斎藤渉、沼野幸正、須藤圭一、上尾庄一郎、×渡辺優、初鹿裕康、安江誠、後藤幸太郎、×大宮秀樹、小口亮子、名越實、佐藤之敏、原博貞、×菊田佳子、桶川和気夫、毛塚勇、杉本忠男、中岡久、後藤尚、遠藤京子、山形正己、島根淳、宮崎孝、上栗優一、二階寿一、今井利雄、中川和道、平井謙二、松岡陽子、真鍋宏、八幡常正、川島昇、佐野哲也、福田靖、石村明也、阪谷正人、三角朗（以上130名）

# 山森欣一理事長「H A J 専従25年」を労う会報告

11月2日、東京、東池袋の「かんぽヘルスプラザ東京」において、H A J「山森理事長の専従25年を労う会」が開催された。

当日は、午後7時、尾形好雄常務理事の司会により開会。主催者を代表して酒井國光H A J会長から挨拶があった後、ご来賓を代表して、「山岳4団体」の日本山岳協会・大森薫雄副会長、日本勤労者山岳連盟・斎藤義孝理事長、日本山岳会・大蔵喜福常務理事から労いのご挨拶があった。次いで、遠藤登H A J前会長（現顧問）のご発声により祝宴に入った。

会場では、青森、山形、奈良、愛媛など遠方から駆けつけた方々を交えて、山森理事長夫妻に労いの言葉が掛けられ和やかに談笑の輪が広がっていた。

宴もたけなわとなり山森理事長夫妻が登壇し、理事長から専従の経緯、当時のライバル集団の話から、ヒマラヤ登山の継承の話まで語られ、事務所開設からカンチェンジュンガ縦走登山の苦労を共にした菊地薫会員が紹介され登壇し、苦労話の紹介があった。

参加者からご夫妻に記念品の贈呈があり、山森理事長には、出席者の中で最も会員番号の古い出口當さん（595番）から、ベルトとトルコ石のバックルがプレゼントされた。また、奥様にはお揃いのマグカップが寺沢玲子さんからプレゼントされた。また、マジックマウンテン国井治社長から山森理事長に、グリベルのモンブラン（ピッケル）が贈られ会場の喝采を浴びた。

八木原絜明常務理事の中締めによって会はお開きとなり、出席者全員で記念撮影を行い散会した。当日の出席者は83名。都合により欠席された方で記念品に協力された方は57名であった。

## ■ [出席者]

山森欣一、美智子ご夫妻。松舘正義《青森》、植松秀之、今野一也、小松伸、飯澤実、那須宗一《山形》、保坂昭憲《福島》、八木原絜明、山田豊、須藤圭一、佐藤光由、吉田文江、寺田勉、牛



久保一《群馬》、糸川章《栃木》、酒井國光、浅野勝己《茨城》、中岡久、菊地薫、渡辺斉、飛田和夫、寺沢玲子、清水修、笹原芳樹、土居玉枝、樫田秀子、岩瀬雄二《埼玉》、江尻健二、加藤孝子、野口道雄《千葉》、遠藤登、尾形好雄、中川裕、睦好正治、天城啟彦、斎藤一男、大蔵喜福、石丸一夫、榎本幸二郎、及川美奈子、大宮求、京極紳、国井治、近喰司、近藤幸夫、近藤庄司、坂本重顕、佐藤俊三、坂井広志、杉美成、鈴木雄一、須田義信、高橋好輝、出口當、寺田捨巳、田中祥治、堤信夫、堤久美、田村正勝、永田秀樹、中山孝、西本武志、野田文子、野村仁、長谷川昌美、藤田弘基、古谷朋之、増田隆、松元邦夫、丸山隆司、萬徳清孝、水野政雄、森山安次《東京》、大森薫雄、斎藤義孝、古関正雄、国重光熙、小林正己、西山暉大、長谷川和雄《神奈川》、石川龍彦《奈良》、岩崎洋《愛媛》





## ■ [記念品協力者]

大内論文《北海道》、千葉富夫《岩手》、高橋久美子《宮城》、稲田定重、伊東満、佐藤邦彦、古川英勝、森谷信次《福島》、黒川篤、齊藤繁、星野光《群馬》、上杉純夫《栃木》、浅見昭夫、関根幸次、田中文男、角田照子、橋本祐吾、弥野光一《埼玉》、稲葉英夫、林英子、宮崎久夫《千葉》、伊藤正毅、小澤観一、小野寺齊、大久保博、神長幹雄、神崎忠男、國見利夫、小室豊、佐藤修史、澤田幸子、戸部秀男、福田昇、藤田礼子、藤原ゆ

り子、北條治男《東京》、植木知司、香取純、迫田泰敏《神奈川》、平田清志《富山》、桶川和氣夫《石川》、工藤誠志《静岡》、江藤公、田辺治、三浦敏弘《愛知》、岩水竜峰《岐阜》、鈴木正典、林雅樹《京都》、樋上嘉秀《大阪》、廣田豊《兵庫》、青木正樹《愛媛》、片岡邦夫、国澤鎮雄《高知》、名越實、太田康夫《広島》、今村裕隆《山口》、岡田伊佐男《長崎》、大住恵子《在パキスタン》

## ■ 寸 感 ■

11月2日、私のH A J 専従25年を大勢の会員内外の皆様にご参集戴いて労ってもらった。ありがたいことであった。

25年も経つと様々な変化がある。そのことはお集り戴いたメンバーの中に、比較的古い人たちの姿が見られなかったことにも現われている。それは私にとって淋しいことでもあった。

専従の切っ掛けとなった「カンチ」の仲間である菊地、八木原、保坂、尾形、飛田、小松の姿をみてホッとしたことであった。

2日後の4日には、北海道の阿部淳さんが亡くなった。理事としてH A J の事業に多大なご協力を戴いた。北海道は特殊である。外国人を招待すると必ず北海道へ行きたがった。その面でも助けていただいた。古い方々へ「お別れ会」の案内を回付したのだが……。 (山森)

林、睦好)

- 9日(火) ヒマラヤ397号発送  
阿部淳元理事(北海道)死去連絡入る(11月4日死去)
- 20日(土) 日本大学創部80周年記念祝賀会、於：市ヶ谷(山森)  
中国登山協会李致新常務副主席、李豪傑同交流部副部長と懇談、於：高田馬場(酒井、山森)  
阿部淳元理事「お別れ会」関係者へ発送
- 27日(土) 第2回日本山岳文化学会大会、於：東京慈恵医科大学(酒井、山森、八木原)
- 28日(日) イエティ搜索隊報告書出版記念会、於：かんぼヘルスプラザ東京(酒井、山森、八木原、中川)
- 29日(月) 東京集会(12名)

## 事務局日誌 (11月)

- 1日(月) 名塚秀二常務理事葬儀について関係者へFAX。
- 2日(火) 山森欣一さんの「H A J 専従25年」を労う会、かんぼヘルスプラザ東京
- 6日(土) 大内倫文理事、佐藤英樹評議員らと懇談、於：札幌(山森)  
第2回北日本海外登山研究会、於：宮城県青根温泉(岩崎)
- 7日(日) 名塚秀二常務理事葬儀、於：前橋市(酒井、岩崎、中川、田辺、古関、

H A J 年末年始休業期間 12月26日～1月5日  
仕事納め 12月25日(土) 仕事始め 1月6日(木)

## ヒマラヤ No.398 (1月号)

平成16年12月10日印刷 17年1月1日発行  
発行人 山森欣一  
編集人 山森欣一  
発行所 日本ヒマラヤ協会  
〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-2-7  
萬栄ビル501号  
電話 03-3988-8474  
郵便振替 00100-6-48954「日本ヒマラヤ協会」

# 遙かなる高みへ

トレッキング・登山隊の許可取得から航空券・現地手配までお引き受けいたします

～ネパール・インド・ブータン・パキスタン・中国・東南アジア・アフリカ・中南米～



◆格安航空券のご相談は◆  
**キャラバンデスク**  
 (東京) ☎03(3237)8384 (直通)  
 (大阪) ☎06(6362)6060 (直通)

トレッキング・海外登山・シルクロード・秘境旅行のパイオニア ■本社 / 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-3-1 岩波書店アネックス5F ☎03(3237)1391(代) FAX 03(3237)1396  
 ■大阪営業所 / 〒530-0026 大阪市北区神山町6-4 北川ビル5F ☎06(6367)1391(代) FAX 06(6367)1966  
 国土地交通大臣登録旅行業第607号・日本旅行業協会正会員  
 西遊旅行ホームページ (http://www.saiyu.co.jp) お問い合わせ・お申し込みフリーダイヤル ☎0120-811391 (通話料無料) をご利用下さい。

**株式会社 西遊旅行**

## 東京新聞の山岳書

東京新聞出版局 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-1-4 日比谷中目ビル6F  
 [TEL] 03-3595-4830 (代) [FAX] 03-3595-4831  
 http://www.tokyo-np.co.jp/tbook/ 中日新聞東京本社

※定価額に消費税も含まれています。

<p><b>最新クライミング技術</b>                  菊地 敏之 著                  フリークライミングからマルチタッチアルパイン、ビッグワイルドまですべてのクライマーへの、実践的な最新技術書。つひこの技術を、単なるマニュアルとしてではなく、その意味や選択基準までをの解説。</p> <p>1,680円</p>	<p><b>ベーシック・フリークライミング</b>                  菊地 敏之 著                  新しい生涯スポーツとしてあらゆる世代に爆発的な人気のフリークライミングを、ムーブの作り方、ロープワーク、自然壁の登り方、スキルアップのしかたを取り組み方など必要不可欠な多項目にわたって、リアルにわかりやすく、かつ理論的に解説。ジムからアウトドアまで、すべてのクライマーのための教則本を自指す。</p> <p>1,785円</p>	<p><b>山小屋の主人の炉端話</b>                  工藤 隆雄 著                  著名な山小屋の主人たちが宿泊の登山者に炉端で語る人語の取っ掛かりのお話。</p> <p>1,575円</p>	<p><b>チャレンジャーアルパインクライミング</b>                  【北アルプス編】                  廣川 健太郎 著                  北アルプス全域を代表する7ルートに分かりやすく、カラ・写真で解説したルート案内書。夏の岩壁・雪稜のバリエーションルートに加え、これまでほとんど紹介されていなかった冬期岩壁登攀・ルンゼ登攀を紹介。</p> <p>2,625円</p>	<p><b>チャレンジャーアルパインクライミング</b>                  【南アルプス・八ヶ岳・谷川岳編】                  廣川 健太郎 著                  上巻の北アルプス編に続いて、南アルプス・八ヶ岳・谷川岳などから日本を代表するアルパイン・クラフティングルートの本を、写真を豊富に使ってわかりやすく解説したルートガイドの決定版。</p> <p>2,625円</p>	<p><b>すぐ役立つ 山のメモ帖</b>                  岳人編集部 編                  登山の実践から環境問題、山の文化話にいたるまでさまざまな話題を提供。</p> <p>1,470円</p>	<p><b>中高年の雪山入門</b>                  福島 正明 著                  岳人編集部 編                  低山から夢のヒマラヤまで。トラバールを未然に防ぎ、白銀の大自然を満喫しながら、雪山歩きを楽しもう。</p> <p>1,680円</p>	<p><b>すぐ役立つ 新・山の雑学ノート・第1集</b>                  岳人編集部 編                  山での話題が盛りだくさんの数だけではつまらない。豊かな雑学が登山をより楽しくより安全にしてくれる。</p> <p>1,470円</p>	<p><b>女性ガイドのしなやか登山術</b>                  樋口 英子 著                  常識にとらわれず、自在に知恵を働かせれば山はもっと楽しくなると呼びかける。女性登山ガイドのユニークな登山講座。</p> <p>1,575円</p>	<p><b>登山の運動生理学百科</b>                  山本 正嘉 著                  「登山」は単に山を登るだけでなく、安全な登山ができるのには、さまざまな最新登山実情を踏まえて、分かりやすくまとめた。</p> <p>2,100円</p>	<p><b>山書散策</b>                  河村 正之 著                  今まで数多く発刊された山書。何を読んだらよいか、そんな時の指針として――「一人」連載時から好評。</p> <p>1,575円</p>
---	--	---	---	--	--	---	---	---	---	---

# ヒマラヤへの装備

●遠征隊の装備、相談にのります。



## Mt. EXPEDITION SHOP ICI ISHII SPORTS

ICI本店	〒169-0073	東京都新宿区百人町2-1-2	03-3208-6601	新潟とやの店	〒950-0982	新潟県新潟市堀之内南1-16-52	025-241-5134
新宿西口店	〒160-0023	東京都新宿区西新宿1-16-7	03-3346-0301	仙台店	〒983-0852	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-1-8	022-297-2442
神田登山店	〒101-0051	東京都千代田区神田神保町1-6-1 (タキビル2F)	03-3295-0622	秋田広小路店	〒010-0001	秋田県秋田市中通1-4-5	018-884-1771
神田本館	〒101-0051	東京都千代田区神田小川町3-10	03-3295-3215	盛岡大通店	〒020-0022	岩手県盛岡市大通1-10-16	019-626-2122
八王子店	〒192-0081	東京都八王子市横山町3-12	0426-46-5211	札幌店	〒060-0062	北海道札幌市中央区南二条西4-8	011-222-3535
大宮店	〒330-0802	埼玉県さいたま市大宮区宮町1-37	048-641-5707	北十二条店	〒001-0012	北海道札幌市北区北十二条西3-5	011-747-3062
高崎店	〒370-0831	群馬県高崎市新町5-3	027-327-2397	伏古店	〒007-0861	北海道札幌市東区伏古一条4-1-45	011-787-0233
川越店	〒350-0045	埼玉県川越市南通町14-4	0492-26-6751	大坂ミナミ店	〒556-0005	大阪府大阪市浪速区日本橋4-9-17	06-6636-2470
甲府店	〒400-0814	山梨県甲府市上阿原町481-1	055-221-0141	神戸三宮店	〒650-0021	兵庫県神戸市中央区三宮町1-3-10	078-335-0355
宇都宮今泉店	〒321-0962	栃木県宇都宮市今泉町1560	028-639-9650	外商部 (メールオーダー係)	〒169-0073	東京都新宿区百人町2-1-2	03-3200-7219
太田高林店	〒373-0825	群馬県太田市高林東町1386	0276-38-0620				
松本店	〒390-0874	長野県松本市大手3-4-24	0263-36-3039				
長野店	〒380-0825	長野県長野市末広町1356	026-229-7739				
茅野駅前店	〒391-0001	長野県茅野市茅野3502-1	0266-82-8510				
新潟店	〒950-0087	新潟県新潟市東大通2-5-1	025-243-6330				

 **ICI 石井スポーツ**